

令和3年度 事業報告書

大慈厚生事業会

1. <経営理念>
 - ①時代の変遷にとまれない、福祉ニーズの変化を敏感に把握し、社会の人々のために、良質な福祉サービスを提供する。
 - ②いつでも、どこでも、誰でもが必要な時に最善の福祉サービスを提供できるように日々研究努力する。
 - ③All for One, One for All [全てが一人の為に、一人が全ての為に]

2. <基本方針>
 - ・法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、人権を尊重した運営をする
 - ・各施設の基本方針を尊重する
 - ・社会的に評価を得られるよう努める

3. <令和3年度法人ヴィジョン>
 - ①経営の強化
 - ・役職者に会計の研修を実施した
 - ・新型コロナウイルス感染や大規模修繕等の補助金の申請、福祉医療機構等の借り入れを行った

 - ②教育システムの充実とサービスの質の向上
 - ・職員 OF 職員の実施。
 - ・動画配信による教育システムの構築

 - ③地域社会に必要とされる法人
 - ・ほっとかへんネット西・中央に参画した

4. <令和3年度目標>
 - ①時代に合った広報・人材確保の強化
 - オンラインや SNS を活用した広報を行った。

 - ②部門間の協力体制作り
 - 月に1回の法人運営会議で情報共有を行った。

 - ③コロナ禍での運営と変化に対応する能力の向上
 - 新型コロナ感染症が発生した時も、リモートを活用して、情報共有を行ったことで感染を最小限にすることが出来た。
 - 保護者への案内をメールで一斉に送信し、情報共有を時間差がなく出来るようにした。

5. 《会議》

法人運営会議	R3/4/16、5/18、6/18、7/13、8/19、9/15、10/18、11/15、12/15、 R4/1/18、2/21、3/22
予算・経営会議	R3/11/2、R4/1/11

6. 《行事等》

日付	行事等
5月20日	監事監査
5月25日	理事会（事業報告、決算他）
6月11日	定時評議員会（決算、社会福祉充実残高）
6月22日	資産登記・役員登記
7月13日	緊急理事会（空調設備工事公告案、応募他）
8月26日	緊急理事会（空調設備工事入札参加業者審査決定他）
9月15日	緊急理事会（空調設備工事入札予定価格他）
9月16日	空調設備工事入札
9月17日	緊急理事会（給水設備工事契約、ICT 設計監理委託他）
10月20日	緊急理事会（大規模修繕・給水設備公告他）
11月15日	緊急理事会（大規模修繕・給水設備入札参加業者審査決定他）
11月24日	緊急理事会（大規模修繕・給水設備工事入札予定価格他）
11月25日	大規模修繕工事・給水設備工事入札
11月26日	理事会（大規模修繕・給水設備工事契約、一次補正予算他）
12月15日	緊急理事会（ICT 改修工事公告）
2月 3日	理事会（次年度予算・計画、二次補正予算、空調借入他）
2月21日	緊急理事会（ICT 改修工事入札予定価格、さくら定員変更他）
2月22日	ICT 改修工事入札
2月24日	緊急理事会（ICT 改修工事契約、福祉医療機構借入申込）
3月29日	緊急理事会（おやかふらっとひろば中央契約他）

7. 《総括》

今年度も新型コロナウイルス感染症が終息することなく、年度を終える事となった。新型コロナウイルス感染症が、発生した施設もあり、対応に追われながらも、昨年度から十分に話し合ってきたことで、部門間や施設間の協力体制が出来ていた。その結果、最小限に抑えることが出来たと認識している。

今年度は、部門間で話し合い、USBを使わずクラウド上でのデータの保存に移行を実施、または実施の準備を行った。

今後も、法人全体で取り組むべきことと部門別に取り組むべきことを精査し、法人の特徴を生かす運営を行っていきたい。

☆高齢者部門

☆ 老人部門

1. 《目標》

全員が主体的になれる部門を目指す

- ・働き方や給与等の見直しや変更
- ・誰もが自分の意見を言える場作り
- ・採用担当者を配置し、戦略的な広報活動と人材確保
- ・技能実習生の受入れ

2. 《行動計画》

①給与・人財システムの改善

②学生向けレジェンド発表会やパンフレット・SNSを活用し、人材確保に努める

③部署内でのコミュニケーションを増やし、深める機会を作る

④新たに技能実習生4名を受け入れ予定とし、合計17名となる見込み。今後も育成方法等、各部署担当者が会議で話し合い、技能実習生が安心して、しっかりと育っていけるようにサポートする

3. 《総括》

今年度も、新型コロナウイルスの感染拡大による様々な制限を受けながらの運営となった。

特にデイサービスやショートステイでは、利用控えがあり充足率が下がってしまった。

入所施設でも新型コロナウイルス感染症が発生したことによる充足率低下が見られた。

しかしながら、その後は最善を尽くして充足率を回復したこと、感染症が無い時に充足率を上げたことは、収入減の抑止力になったと思われる。

また、ケアハウス大慈と大慈ショートステイさくらが昨年度よりも充足率が上がり、収入増となった。

各施設、リモート面会や窓越し面会を続けながら、少しではあるがご家族とゲストの関わりが持てる様に努めた。

大慈弥勒園では、主任の体制や給与等についての変更や採用や広報を専任で行う職員の配置を行った。

技能実習生については、4名受け入れ予定だったが新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度は受け入れが出来なかった。来年度に3名（1名は試験不合格の為辞退）受け入れを予定している。

また、大慈弥勒園で受け入れていたスリランカからの1名は、10月に特定技能に移行し勤務をされている。これで技能実習生15名、特定技能1名となる。

今年度も、各施設間で話し合いや協力が出来たことが良かった。その反面、各施設内で報連相が出来ていなかったり、ルールが守られていなかった事案もあった。

今後、改善をすすめ、同じ事が起きない、徹底していきたい。

4. 《人財確保と育成等》

①人財確保 新卒10名採用

人財の採用については、新卒は3名に留まった。

②人財育成計画

ネット配信による研修システムを導入する事で入職時研修や虐待研修等をリモートで実施出来た。iPadの購入やWi-Fiの準備を行い、内外の研修や会議にリモート参加できる環境を作った。次年度より開始する予定の人財育成システム構築の準備を行った。

③福利厚生等

互助会よりコロナ慰労金として、会員に1万円支給した。

5. 《地域貢献事業》

櫛谷地区の給食会の送迎を行った。ほっとかへんネット西に参画した。

6. 《広報活動》

今年度は、営業部長を中心にあんしんすこやかセンター等に営業を行い、新規利用者につながった。また、採用についてはコンサルタントから学び、自社のアピールポイントを洗い出したり、面接の方法を変更した。

● 随時対応・・・ホームページ更新作業

7. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月～7月	介護職員初任者研修	新人職員
4月～7月	新人職員研修	新人職員
3月	ステップアップ研修	昇級予定者
毎月1回	コーチング研修	役職者(弥勒園)
毎月2回	遠藤メソッド研修	役職者等

8. 《施設整備等》・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
自動火災報知受信機交換設置工事	大慈園
非常放送設備交換設置工事	大慈園
外壁等大規模修繕工事	大慈園
大規模修繕時の際に合わせて行う、見守りセンサー等のICT機器導入(令和3年度分)	大慈園
給水設備整備工事	大慈園
天井照明のLED化	大慈園
空調設備更新工事	ケアハウス大慈
車両購入	居宅介護支援事業所大慈園

※大慈SS→大慈ショートステイ

※大慈園→大慈弥勒園、大慈ショートステイ、大慈デイサービスセンター、大慈吉祥園

9. 《会議・委員会》

会議名等	
事業戦略推進会議	予算管理委員会
人事委員会	モチベーションアップ委員会
広報委員会	こども参観会議

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者（職員）	陽性者（ゲスト）
17人	21人

○費用・補助金等

感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
11,577,998円	12,676,190円

※ 補助金12,676,190円のうち4,732,000円は保健所要請による施設内療養に対する補助金

○まとめ

- ・毎日リモート会議を行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
- ・発生時の対応フローチャート作成及び事業継続計画（BCP）作成に着手。
- ・応援派遣時の対応フローや職員の宿泊場所等の情報収集の実施。
- ・クラスター発生時の応援派遣体制の構築と、応援派遣職員に対する防護服等の着用に関する研修とマニュアルの作成。
- ・ワクチン未接種者の定期的なPCR検査の実施。

☆ 保育・児童部門

1. 《目標》

施設間の情報共有の強化

→チーム会議をオンラインで開催し、情報の共有を図った。

2. 《行動報告》

- ・園長・管理者会議をオンラインや対面で行った。
毎月1回 各園（館）の状況・取り組みや課題を共有し、運営や保育を進めた。
- ・保育教諭会議をオンラインで行った。情報交換、意見交換を行い、問題解決に向け検討を重ねた。
- ・キッチン会議をオンラインで行った。献立の意見交換、情報交換、食育に関する相談等を行い、実際園での取り組みや献立に反映させた。
- ・リスクマネジメント会議をオンラインで行った。環境要因・人的要因等、課題を抽出し解決・改善に向けて取り組んだ。

3. 《人財確保と育成等》

① 人財確保

兵庫県・神戸市合同就職フェアに参加した。

② 人財育成計画

- ・今年度は、概ね各園・館内での教育になった。
- ・個々の保育技術、教育的知識を高められるようにオンラインでの研修も行った。

4. 《地域貢献事業》

<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染対策のため、子育てサロン・園庭開放・ワークキャンプ・トライやるウィークは、中止した。 ・児童館において、一般来館者は、まん延防止等重点措置期間予約制とし、親子館事業のプログラムは、年間を通して完全予約制にし、密を避けながら子育て支援に努め、地域貢献に取り組んだ。 ・小学生の学習支援、外国にルーツを持つ子どもの学習支援は、蔓延防止等重点措置期間以外週1回行った。 ・大慈こども園の地蔵盆は、園児のみで行った。

5. 《研修会等》

月	研修名	対象者
4月	新任職員研修（オンライン）	新卒職員
5月	中堅職員研修（オンライン）	2年目3年目職員

6.《施設整備等》・・・50万以上の主な工事等を記載

項目	施設
LED工事	大慈幼保連携型認定こども園
トイレ改修工事	大慈ひょうご幼保連携型認定こども園
ランドセル棚	たちばな児童館

7. 《会議・委員会》

会議名等	
職員会議	管理者会議
保育教諭会議	キッチン会議
リーダー会議	ワンアッパー会議
リスクマネジメント会議	支援会議
三者連絡会議	

8. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者（職員）	陽性者（子ども）	自粛人数
15人	70人	549人

○費用・補助金等

感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
1,996,500円	6,175,348円

○まとめ

- ・「新型コロナウイルス感染症 発生時の対応マニュアル」の作成
- ・神戸市からの通達の共有、対策会議の実施
- ・保護者へのメール配信

- ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期間、園（館）間の職員の移動を中止した。
- ・緊急事態宣言及びまん延防止等重点措置の期間、園間の交流を中止した。
- ・感染対策のため、行事の開催方法の変更や中止を行った。
- ・感染者発生時、法人内でできることを積極的に行い、連携を図った。

1. <<基本方針>>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、肉体的な援助を行なう。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。特養においては、認知症専門棟及び一般棟の特色を活かしたケアができる様に努める。

2. <<令和3年度重点目標>>

①健全な経営 各施設で設定した充足率の目標達成を目指す。

- ・強みの開発やサービスの変革を行い続ける
- ・高齢分野の社会福祉施設、ゲストの容態やご家族の希望に合わせ、柔軟に対応できる福祉サービスを提供。関係機関との信頼を高める



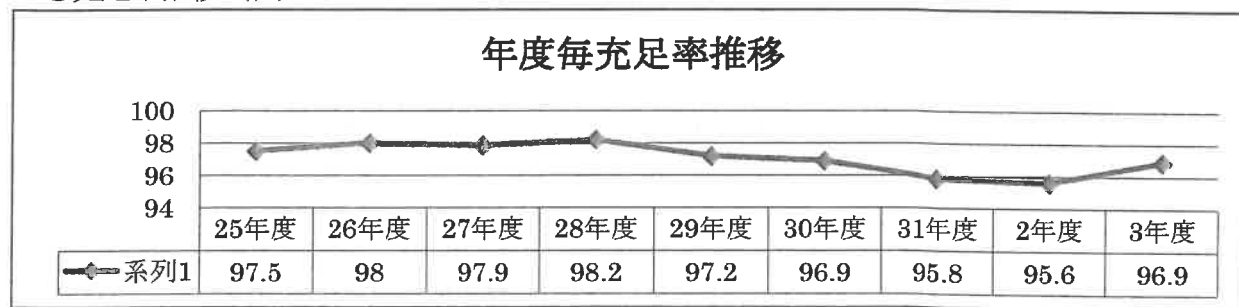
【充足率の目標達成値】

- ・特別養護老人ホーム大慈弥勒園 98%
- ・大慈弥勒園ショートステイ 100%
- ・養護老人ホーム大慈吉祥園 100%
- ・大慈デイサービスセンター 80%

社会福祉施設を必要とされているゲストやご家族に対して、インテークから入所後の介護サービスの提供まで、各部署が役割をもち迅速に対応できたように感じられた。その結果から、目標値には達しなかったものの充足率の維持・向上に繋がったように思える。ただ、令和4年2月、3月頃は感染対応を重視することとなり、これまでのような相談や受け入れ対応が一時的に困難になる場面もあった。次年度に向けても引き続き、ゲストに安全な介護サービスの提供を行う為にも感染対応時の受け入れ方法等が課題として上げられる。

令和3年度月別充足率表

○充足率推移 (%)



○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和3年度	25	3	21	19	28	20
② 令和2年度	25	1	13	11	21	13
③ 平成31年度	33	1	19	13	27	17
増減①-②	0	+2	+8	+8	+7	+7

○介護度別年齢別等人数表

令和4年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間3.1年(男性3.5年、女性3.0年)、最高滞在期間15.7年(女性)

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0	歳	1	0	1	84歳
2	5	2	3	87歳	4	2	3	86歳
3	33	7	26	89.3歳	35	8	27	88.2歳
4	35	9	26	86.3歳	34	10	24	86.6歳
5	21	6	15	86.4歳	25	6	19	87.9歳
合計	94	24	70		100	26	74	
平均介護度		3.7	3.7	3.7		3.7	3.8	3.7
平均年齢		86.7歳	87.6歳	87.4歳		85.3歳	88.2歳	87.4歳
最高年齢		95歳	101歳			94歳	102歳	
最小年齢		63歳	69歳			62歳	68歳	

②人材育成 情熱・ロマン・思い・気持ちを共有

- ・目的のある会議を毎月1回以上開催し、参加率を90%以上にする
- ・話しやすい雰囲気づくりを行い、一人一人の強みを大切にする
- ・課題解決型ではなく目標達成型の面談を2か月に1回実施する



《職員会議・OFF-JT》

頻度	会議名				
月1回	看取り介護委員会	事故再発防止委員会	サービス向上委員会	感染症防止対策委員会	事業戦略推進委員会
	369会議	身体拘束適正化検討委員会	チームコーチング	部門会議	給食委員会
	褥瘡防止委員会	全体会議(1F・3F)	非常災害時対策委員会	営業会議	法人運営会議

	人事委員会	研修委員会	予算・経営会議	広報委員会	技能実習担当者会議
	モチベーションアップ委員会	医療的ケア推進委員会	労働衛生委員会	社会貢献委員会	事業継続会議 (BCP)
随時	ケアカンファレンス		人事検討会議		

日付	研修会内容	参加人数
4月28日	非常災害（防火・防災）対策研修	15名
5月26日	感染症まん延防止研修（BCP・シュミレーション）	15名
6月30日	事故再発防止対策委員会（食事姿勢・誤嚥・緊急対応） 看取り介護の指針普及・看取りの基礎	24名
7月28日	非常災害対策研修（土砂災害対策・不審者対策）	16名
10月15日	職場における腰痛予防講座（新人・技能実習生等）	16名
9月15・28 10月6・15・20・21	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修	全職員
10月28日	感染症発生時のマニュアルとガウンテクニック	13名
11月25日	看取りケア・褥瘡対策・事故再発防止・腰痛予防	24名
3月24日	身体拘束適正化研修・高齢者虐待防止研修 労働衛生教育 カスタマーハラスメントについて	6人
毎月	チームコーチング研修	役職者

- ・リスクマネジメント研修を修了した安全対策担当者を決定し事故の再発・発生防止に関する研修を実施した。
- ・コロナ禍において、リモート学習による自己研鑽を積む体制を整備するため、外部教材を活用したeラーニングの運用を開始し、施設内の必須研修及び自己学習機会の提供体制を構築。
- ・ベトナム技能実習生の細やかなサポートにより初級・専門級等の試験に全員合格（初級合格2名、専門級合格2名）
- ・1回/2ヶ月の面談実施を継続し、職員の意見等を集約し改善に繋げたが、感染対応などが影響し実施できない月もあった。感染対応時にもリモートを活用し、対面でのコミュニケーションが実施できない場合でも、密にコミュニケーションが取れる体制であった。
- ・中途採用（介護職）に関しては、主に求人広告・ハローワーク・成果報酬型求人サイトをメインに活動を行ったが、求人広告からの応募4件・ハローワークからの紹介2件・ホームページからの応募2件という結果であり、いずれも条件の不一致等を理由に採用には至らず。その為、成果報酬型求人サイトを中心にスカウトを行うも、必要数の獲得には至らなかった。
- ・新卒採用については、コロナ禍での学校訪問・実習の受け入れが困難であった事と、弥勒園独自の取り組みがなく他法人との違い（ブランディング）が出来ていなかった。今後、新卒を獲得するための試みとして、弥勒園の強みを見直すと共に、広報活動にも力を注ぎ高校や大学に対し発信していく事で、関係性を構築し知名度を上げ信頼を得ていく。

③働きがい メンタルコーチと共にチームビルディングを実践

- ・ホームページの集客人数20%UP
- ・大規模修繕計画、予算に基づいた、改修工事実施率100%

【環境整備計画（予定）】

- 1) 外壁・防水工事
- 2) 自動火災報知受信機・放送設備
- 3) 電話・PHS・Wi-Fi・Ns コール改修工事
- 4) その他（設備関連工事等）



・ホームページの集客人数として新規セッション率が69.7%から72%（令和3年度）と約2.3%の増加あり。その他の項目についても昨年度の数値を上回る結果となった。ホームページのブログ更新を定期的に行った事が新規ユーザーの獲得に繋がっていると考えられる。

※新規セッション率→初めてサイトを訪問したユーザーが全体のセッション数に対して、どれだけの割合を占めているかを表す数値。

【工事関連】

- ・自動火災報知受信機交換設置工事 耐用年数経過に伴い。(令和4年3月15日 完了)
- ・非常放送設備交換設置工事 耐用年数経過に伴い。(令和4年1月31日 完了)
- ・見守りセンサー等の ICT 機器導入 全工程の3%分を令和3年度に着工・完了(令和3年2月25日～3月31日)。年度内着手分の補助金受領済み。(¥77,700,000- 補助金満額の約3%分)
- ・大慈園外壁等大規模修繕工事 外壁塗装・防水等工事(令和4年6月30日完成予定:補助事業)
- ・給水設備整備工事 耐用年数経過に伴い貯水槽の交換・更新工事(令和4年7月15日完了予定:補助事業)
- ・天井照明のLED化【照明玄関・1Fホール・デイサービス・1F浴室前廊下】(令和4年3月完了)

④地域貢献 介護予防と介護の魅力伝える

- ・地域に積極的に出向き、友達を10人つくる
- ・要援護者支援センターとして地域の防災訓練・福祉避難所訓練に年に1回参加する
- ・災害発生時に地域の方をスムーズに受入が出来るよう、基幹福祉避難所開設訓練を年1回実施する
- ・学生を対象としたレジェンド発表会を開催し介護について考える教育機会をつくる
- ・地域向けレジェンド発表会を開催し、介護で困っている方のサポーターとなる



・基幹福祉避難所開設訓練を実施しマニュアルの確認・備蓄の点検・対策上の疑問点や問題点を解決した。

・地域サポート施設として地域での活動（介護教室や移動支援）を予定していたがコロナ禍での実施が難しく、移動支援のみの数回の実施に終わった。

・地域や学生を対象にしたレジェンド（施設サービスの取り組み）発表会の開催は出来なかった。

⑤新しいことにチャレンジ

- ・他業種と協力して商品開発を行う
- ・企画立案件数10件と実施率100%



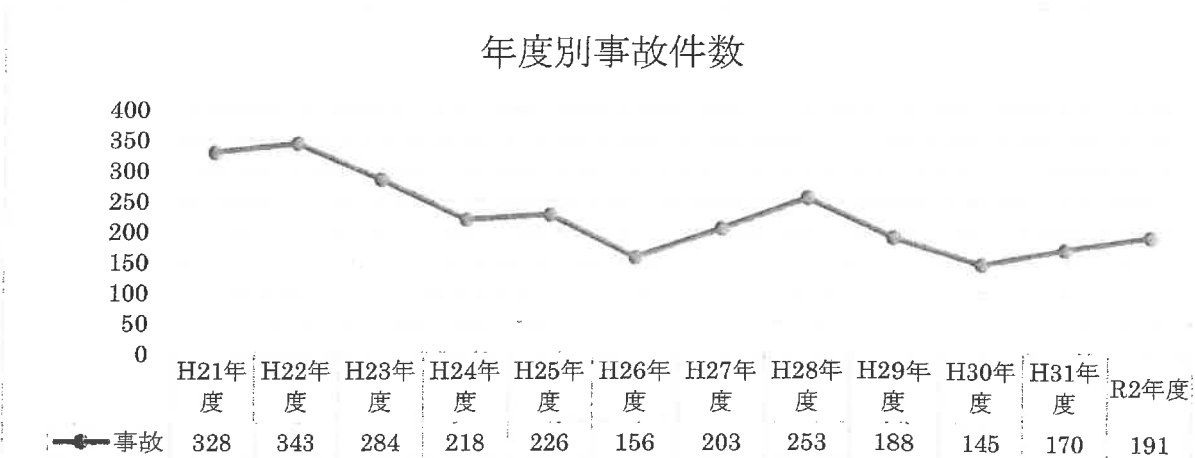
・営業活動：新たな取り組みとして、ケアマネージャー向けの施設見学会（オンライン）の開催を行った。事前に広報活動も行っていたが、目標としていた事業所数に到達できなかった。今後も試行錯誤しながらコロナ禍でも出来る事を考え挑戦していく。

・行事：1F・3F 合同の誕生日食事会の開催と、BEAUTY DAY の開催。また吉祥園では野菜作りを行い、実際に利用者様に召し上がっていただいた。アロマを活用し、利用者様の心身を日々癒している。目標としていた企画案件数8件に対しての実施は3件のため、到達率37.5%。メンバー数が少なかった点や、チーム内で完結させようとしていたため、今後は他部署の力を借りながら実施率を増やしていく。

3. <リスクマネジメント報告>

①報告件数（1F→プラム棟、3F→一般棟）

○年度別事故件数

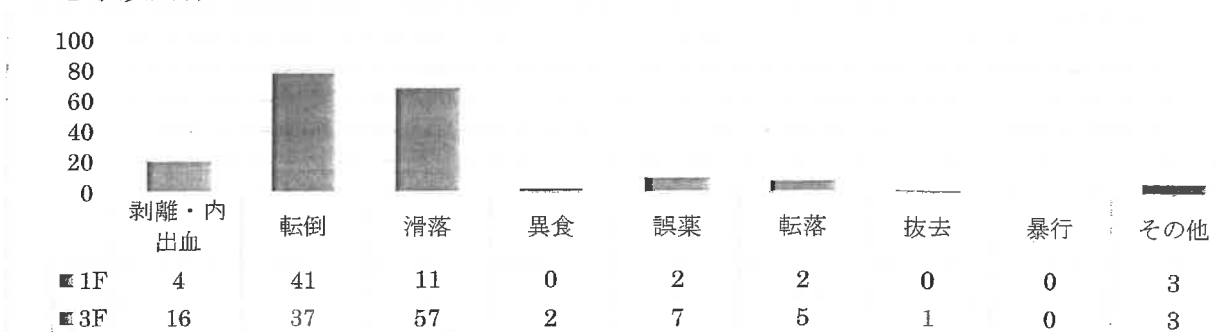


○フロア別内訳

令和3年度		令和2年度	
1F	63件	1F	90件
3F	128件	3F	80件

③発生内容別件数

○事故内容



④リスクマネジメントまとめ

前年度と比較して1F・フロアは事故が減少。3F・フロアについては増加する。発生内容別では転倒事故が最も多く、滑落事故についても同様の件数になっている。1Fフロアでは歩行される認知症のゲストが多いことから転倒事故が増えている。

3Fフロアでは滑落事故が最も多く、夜間帯を含め、自身で起き上がり動作や、車椅子への移乗をされるゲストが多い為、滑落事故に繋がったと考えられる。来年度は部署の特性に合わせたリスクマネジメントの検討を実施し、事故の減少に繋がりたいと考える。

4. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和3年度				令和2年度			
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
1F	2件	0件	2件	1F	0件	0件	0件
3F	4件	0件	4件	3F	3件	0件	3件

○苦情相談まとめ

入浴等のサービスに一部変更が生じた際に心情理解と懇切丁寧な説明が不足していたこと。

5. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

令和3年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
1F	2件	0件	¥2,930,702円	¥5,791,123円
3F	6件	10件		

※ 補助金 5,791,123 円のうち 4,156,000 円は保健所要請による施設内療養に対する補助金

○新型コロナウイルスまとめ

- ・毎日リモート会議を行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
 - ・発生時の対応フローチャート作成及び事業継続計画(BCP)作成に着手。
 - ・応援派遣時の対応フローや職員の宿泊場所等の情報収集の実施。
 - ・クラスター発生時の応援派遣体制の構築と、応援派遣職員に対する防護服等の着用に関する研修とマニュアルの作成。
 - ・ワクチン未接種者の定期的なPCR検査の実施。
 - ・2月3日特養一般棟のゲストに陽性者を確認。後、最後の陽性者が療養期間を終了したのが3月1日であり、約1カ月間、施設内にて療養者の感染対応を行った。その間、他者との接触を軽減、居室内で過ごす時間の増加等の感染拡大防止対策を行った結果、ゲストのADL、生活の質低下に多大なる影響を与えたと感じている。又、入所者の新規受け入れを停止していたことから、充足率(在園率)が96.7%(1月末時点)から92.3%(3月末時点)となり-4.4%減少。結果、約185万の減収となった。
- 【補助金・見舞金】**
- ・感染防止対策支援事業補助金(兵庫県)、感染拡大防止継続支援補助金(厚労省)、介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)、新型コロナウイルス感染症対応医療機関支援事業(神戸市)、全国老人福祉施設協議会、神戸市老人福祉施設連盟、全国社会福祉法人経営者協議会

6. <総括>

1年間を通し、新型コロナウイルスのクラスター発生等、緊急を要し不安や困難を感じる様々な場面があった。また昨年度に引き続き、感染症まん延防止策を徹底する中で外出の自粛要請、イベントの中止、面会禁止（オンラインの使用）等を受け、ゲスト・職員ともに生活に大きな影響があったと感じる。

しかし、数々の不安や困難があった1年ではあるが、チームで力を合わせ、一歩ずつ確実に課題解決が図れたと感じている。次年度においても「緊急ではない重要なこと」にフォーカスを置き、行動目標を決め、職員一人一人が目標に向かって行動し、各職員間のコミュニケーションの質を大切に行う。そしてご利用者満足を高めたい。

令和3年度 事業報告書

大慈ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立方針である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・身体的な援助を行う。又、利用された皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和3年度重点目標・行動計画>

『強みを作ることで新たに利用したいと感じるサービスを提供する』

①行事・レクリエーション・リハビリ等、参加したいと思える活動を推進

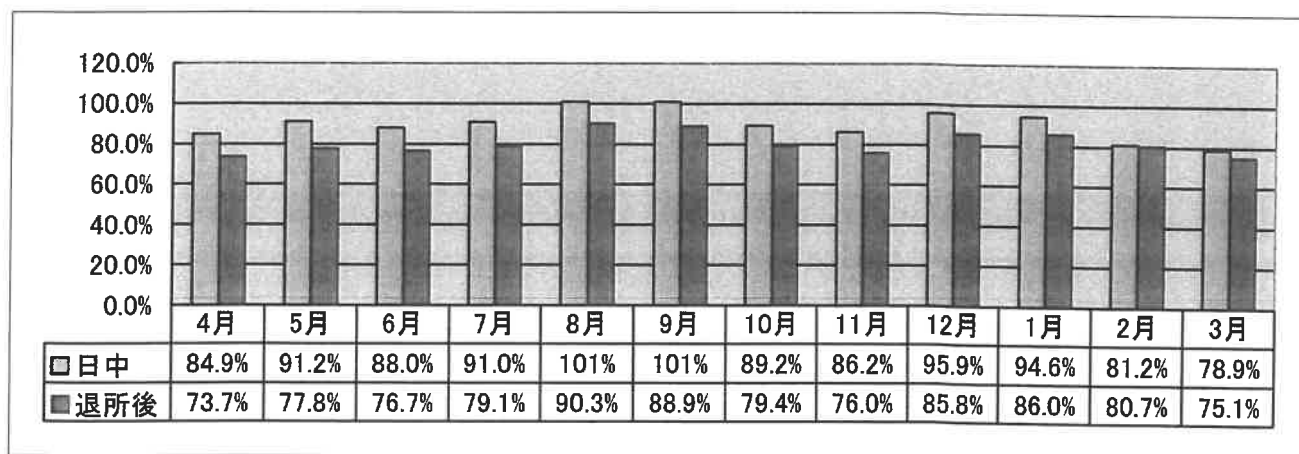
コーヒーマーカーを導入や機能訓練指導員による個別機能訓練や集団体操を実施するなど行事やレクリエーション等も増えた。ケアマネ説明会をリモートで実施することもできた。しかしその活動をゲスト・家族・居宅のケアマネに強みとして受け入れられていないのが現状である。ショートステイ職員一人一人が強みの開発に自主的に参加できる話し合いの場を設け強みの活動を推進していきたい。

② 在宅介護で困っている方への手を差し伸べる（介護相談・地域貢献）

ケアマネより持ち掛けられた在宅介護の困りごと相談にご自宅へ同行して問題解決に向け家族・ケアマネと一緒に考え話し合うことで契約に結び付けることもできた。施設だけの困りごとではなく自宅に戻ってからの生活を考えた介護方法を多職種と相談しアドバイスを受け実践することもできた。また、職員も送迎に行き自宅の様子、家族とコミュニケーションを図ることで在宅での困り事、相談を理解し介助方法などを率先してアドバイスが出来るようにしていきたい。

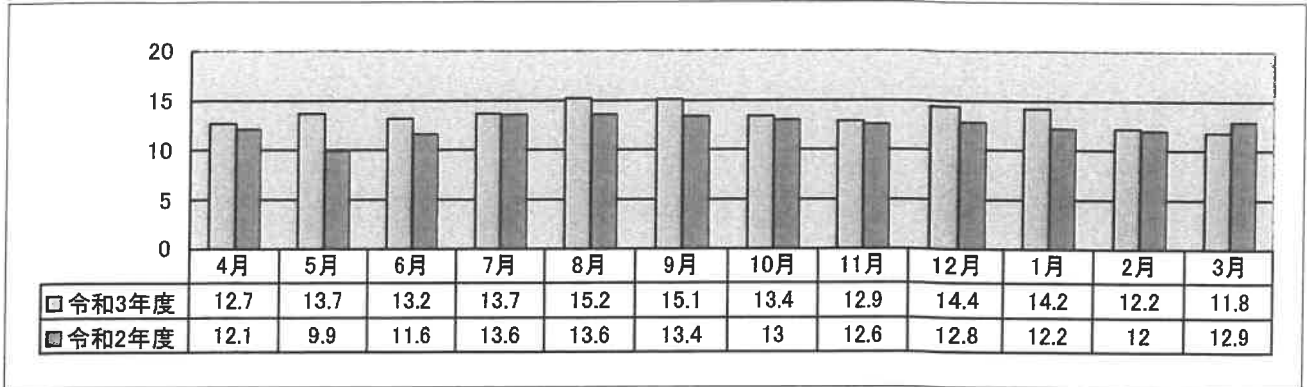
○充足率→日中90.24%、退所後80.8%

(前年平均 日中90.95%、退所後81.61%)



○平均人数→日中12.2人、退所後12.4人

(前年度平均 日中13.7人、退所後12.9人)



●介護度別年齢別等人数表 (3月31日時点での実人数)

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	3	0	3	93.3歳	1	0	1	85.4歳
支援2	0	0	0	歳	5	3	2	88.3歳
1	24	1	23	89歳	20	1	19	85.8歳
2	52	8	44	84.2歳	50	20	30	81.0歳
3	114	51	63	82.6歳	106	36	70	90.7歳
4	86	18	68	85.8歳	106	26	80	87.4歳
5	82	18	44	81.6歳	85	49	36	87.4歳
合計	361	116	245		373	135	238	
平均介護度		3.8	3.2	3.4		3.8	3.4	3.5
平均年齢		80.4歳	85.4歳	82.9歳		82.1歳	89.8歳	87.3歳
最高年齢		94歳	99歳			93歳	98歳	
最小年齢		63歳	59歳			63歳	62歳	

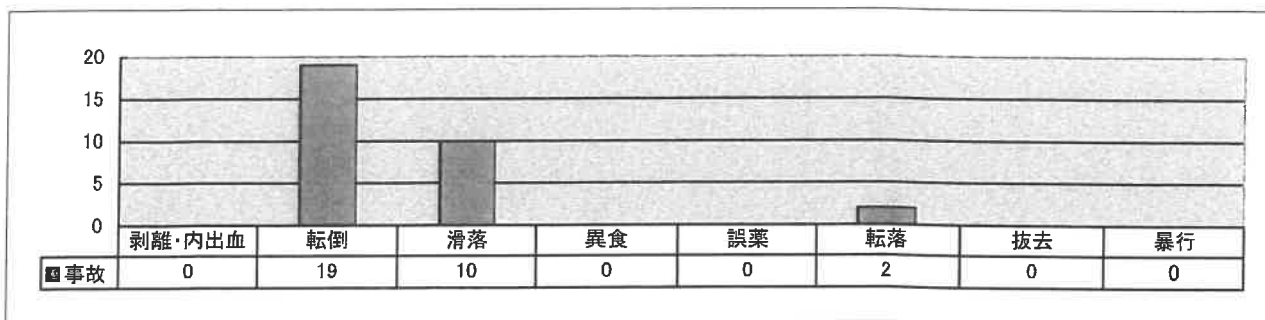
3. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とする。

①報告件数

	令和3年度	令和2年度
事故件数	31件	35件

②発生内容別件数



③まとめ

事故件数は減少したが、同じゲストが繰り返し転倒や滑落をするような事故が発生している。歩行はできないが車椅子で活発に移動される方が多く事故のリスクが上がっていると考えられる。同じゲストが繰り返す事故について、ゲストの動向を全体で把握し事故予防に努めていく。また、夜間のセンサー入れ忘れの事故も増えており定期的なスイッチの確認を実施するなど対策を周知し再発防止に努める。

4. 《苦情・相談結果報告》

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	令和3年度			令和2年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	3件	0件	3件	3件	3件	0件	3件

○まとめ

ゲスト・家族の気持ちに寄り添った説明が出来ていなかったことで不信感や混乱を招いた。ゲスト・家族から説明を求められた場合、迅速に誠意を込めた対応を心がけたい。

5. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数 (1F→プラム棟、3F→一般棟)

	令和3年度			
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等 (見込 み含む)
ショートステイ	1件	0件	¥91,445円	¥15,000円

○新型コロナウイルスまとめ

1月中旬以降、県内の感染拡大に伴い、利用控えや長期利用の方を優先したことにより充足率が94.6% (1月末時点) から78.9% (3月末時点) となり-15.7%減少。結果、約53万の減収となった。

だが、ゲストの入所時前からの検温や問診票提出やマスク着用の徹底やテーブルにシールドの設置を行い、職員もフェイスシールド装着の徹底など、感染対策を徹底したことにより、感染者の発生や利用停止等なくサービスを提供することが出来た。

【補助金・見舞金】

- ・感染防止対策支援事業補助金(兵庫県)、全国社会福祉法人経営者協議会

6. 《総括》

令和3年度新規契約者は37件であり、昨年と比較して5件減少、日中充足率平均90.2%となっている。コロナ感染拡大が大きく影響しており目標値には到達していない。経過としては7月頃よりコロナ感染者も減少傾向になり8月、9月は日中の充足率も100%となった。以降、前述した通り、感染者の拡大によりゲストの利用控え等の影響を受けたこと、又、感染防予対策として2月3月の通常の入退所の受け入れから、長期ご利用のゲストを優先したこと等、充足率の安定に結び付けることが出来なかった。結果、定期利用の方も数名が他施設に移ってしまった。

しかし感染対策で入所時前に検温の徹底や問診票の記入をして頂くことでご家族にも感染対策の意識も高く持つて頂くことができた。また利用時のゲストマスク着用やシールドの設置、職員のフェイスシールド着用を徹底することでゲストへの感染を防ぐことが出来たのではないかと思います。来年度も特養の空床利用の有効活用等、安定した充足率向上に繋げていきたい。

令和3年度 事業報告書

大慈デイサービスセンター

1. <基本方針>

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」を基本方針として、要援護の高齢者がより自立的な生活を可能な限り自立して安らかに営むこと、社会的孤立感を解消すること、心身機能の維持、向上を図ることを目的として高齢者自身を援助することの他、介護する家族の身体的・精神的負担を軽減できるよう努力し、在宅での介護が中心となるデイサービスの利用者に対し、ケガ・事故のない様に細心の注意を払い、より良い環境でのサービスを提供していく。

2. <令和3年度重点目標>

『在宅生活の支えとなるデイサービスの構築』

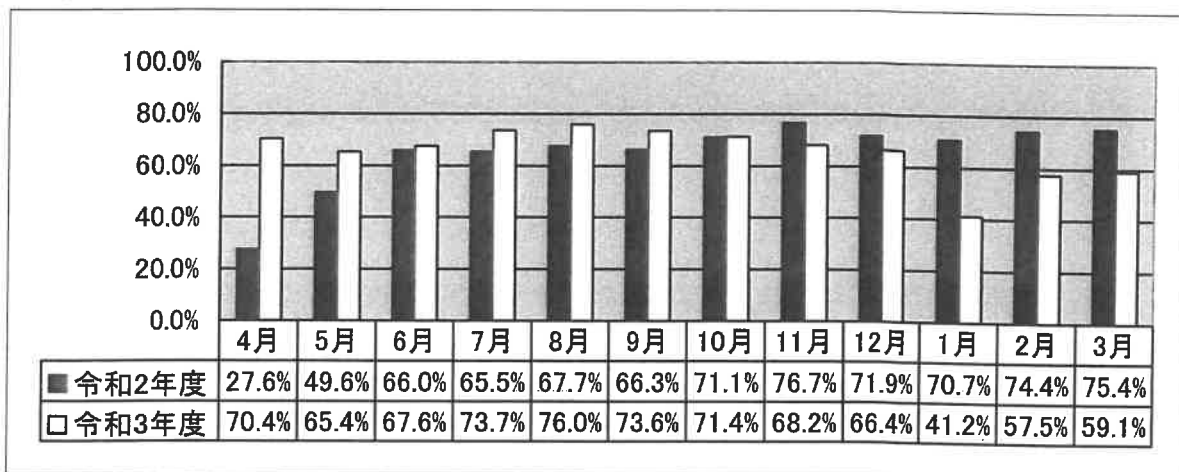
3. <部門別目標>

①多職種連携と介護力の強化

昨年度に比べ、中重度者の割合が増加。(令和2年度：47.6% 令和3年度：53.2%)より専門性のある介護技術・サービスを求められる中、福祉用具や機能訓練指導員によるOJTを行う事で、職員間のコミュニケーション機会が増え、利用者様の負担軽減と職員の知識・技術の向上につなげる事ができたと感じる。多職種との連携についても、ラインワークスを活用する事で、情報共有及び対応の遅れが減っている。コロナ渦で密の回避による予定していた研修会が開催できなかったこともあり、次年度については、より質の高いサービスを提供する為に必要な知識と技術の向上に取り組んでいきたい。

②広報活動の推進と営業方法を変更

●充足率推移 (%)



●介護度別年齢別等人数表（3月31日時点での実人数）

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	3	0	3	93.3歳	1	0	1	85.4歳
支援2	0	0	0	歳	5	3	2	88.3歳
1	24	1	23	89歳	20	1	19	85.8歳
2	52	8	44	84.2歳	50	20	30	81.0歳
3	114	51	63	82.6歳	106	36	70	90.7歳
4	86	18	68	85.8歳	106	26	80	87.4歳
5	82	18	44	81.6歳	85	49	36	87.4歳
合計	361	116	245		373	135	238	
平均介護度		3.8	3.2	3.4		3.8	3.4	3.5
平均年齢		80.4歳	85.4歳	82.9歳		82.1歳	89.8歳	87.3歳
最高年齢		94歳	99歳			93歳	98歳	
最小年齢		63歳	59歳			63歳	62歳	

新規利用者数：15名 登録者数：54名（3月31日時点）

9月より、新たに導入した『シナプソロジー』や個別機能訓練再開に伴い、パンフレットの変更を行った。強みとしてあげている『個別機能訓練』・『送迎時における居宅内介助』を目的に新規顧客に繋がったケースもある中、利用者数の減少も見られた。理由としては、感染症対策による自粛や入院・登録抹消者等があげられる。感染症対策の観点から、事業所訪問を控え、ラインワークスでの広報活動も十分に行えず、課題としてあがった。次年度は、広報活動について運営会議で検討し、外部へ発信していく。

4. <リスクマネジメント報告>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

○令和3年度報告件数

	令和3年度	令和2年度
事故件数	8件	9件

②発生内容別

剥離・内出血	転倒	滑落	事故・その他
0	6	1	1

○リスクマネジメントまとめ

令和3年度は事故8件のうち転倒事故が6件と多かった。そのうち重大事故に繋がった事例もあった。全ての事故は職員の軽微なミスが招いたものと考えられる為、職員の危機意識と介護スキルの向上を目指して次年度は事故件数の減少を目指したい。

5. <<苦情・相談結果報告>>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		5件	0件	5件

○苦情相談まとめ

利用者様への懇切丁寧な説明不足による相談があがっている。利用となった背景やケアプランの共有、サービスの提供を行うことで防ぐことができた内容であった。
次年度においても、利用者様・家族様との関りの機会を増やし、職員間での情報共有及び統一したケアを行っていききたい。

6. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

○発生件数

令和3年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
DS	0件	4件	¥ 419,435円	¥ 298,000円

○感染まとめ

新型コロナウイルス感染症に伴い、令和4年1月24日～2月1日の期間を休業とした。
(1月20日より、自粛希望者数名あり)
それにより、前月の収入費と比較し、約 ¥1,824,067円の減収があった。
自粛される方や入院が長期化する方もおられる中、9割程の利用者様が利用を再開。
『感染症又は災害を理由とする加算：3%加算』を3月より算定し、約2カ月間で利用者数が回復。
今回の休業で、より感染症対策に重点をおいたサービス提供を行う必要性を感じ、密を避ける為の環境整備を引き続き行うと共に、業務内容の見直しも行った。
関係職種との情報共有を行いながら、次年度も『安心・安全』にご利用頂けるよう取り組んでいきたい。
【補助金・見舞金】
・感染防止対策支援事業補助金(兵庫県)、介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)、全国社会福祉法人経営者協議会

7. <<総括>>

令和3年度に目標としていた充足率80%達成・維持には至っていない。
新型コロナウイルス感染症発生に伴う事業の休止、新規顧客に対し入院や自粛を理由とした欠席者も多く、安定しなかった。
しかし、在宅生活を支える家族様への情報提供や介護職員の技術・知識の向上といった行動計画は実施出来つつあり、次年度に向けて部署全体の成長を感じることができた1年であった。
次年度においても、利用者様の利用背景やケアプランを職員間で共有し、より質の高いサー

ビスの提供を目指す。また、家族様とのコミュニケーション機会を増やし、関係職種との連携を図ることで、重点目標とした『在宅生活の支えとなるデイサービスの構築』を目指す。

令和3年度 事業報告書

養護老人ホーム 大慈吉祥園

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和3年度重点目標・行動計画》

『ゲストも職員も楽しいと思える場所にする』

① 「できない」ではなく「どうすればできるか」を考える

新型コロナウイルス感染症で出来なかった行事を今年度はどうすれば出来るかを一人一人の職員が考え、実施出来た。BEAUTY DAY の開催でゲストの好きな服を選んで貰い化粧をしての写真撮影を行ったり、アロマの活用で廊下にディヒューザーを設置し、匂いを楽しんで頂いたり、手浴や足浴時にアロマオイルでマッサージを行ったりと新しいことにも取り組めた。コロナに気を使いながらであったので、いつも通りには行かないこともあったが、出来ないことがあれば新しく出来ることを始めれば良いと言う事が分かった1年であったと思う。

② 相手のいいところにフォーカスする

この行動計画について具体的な動きに持っていく事が出来なかった。部署会議などを使って相手のいいところを言い合うなどの行動が出来れば良かったと思う。

③ コミュニケーションを重視し信頼関係を構築させる

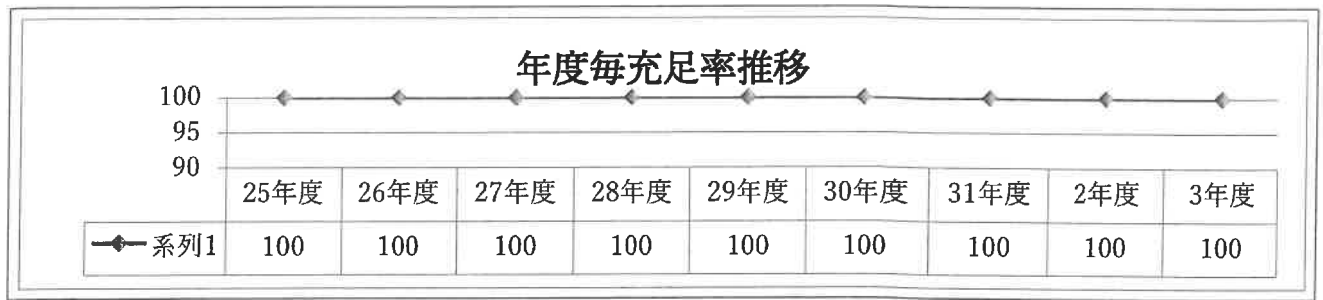
職員会議・処遇会議の部署会議については感染対策を考慮しながらであったため参加率増加が難しかったが、年度途中よりリモート参加を推進し、参加率上昇に繋がった。より多くの参加をして貰うために実施時間等の検討が必要かと思われる。

コロナ禍で家族様との面会が自由にできなかつたり、職員もゲストの家族様と会う機会が減っている中で、少しでも園の様子・ゲストの様子を知って頂くためにブログの更新を増やしたり、日常や行事で撮影した写真を使用して広報紙『吉祥園だより』を作成。誕生月のゲストの家族様へ郵送を行った。郵送の祭、ブログ閲覧のお知らせを掲載。ハロウィン等のイベント時のブログ閲覧数は増えた。

1回/2ヶ月の面談については出来ていなかった。日常での声掛けや必要に応じて面談を行っていたが、来年度はリーダー・チーフが面談を実施出来るようにし、職員同士の人間関係が深まるようにしていきたい。

3. 令和3年度月別充足率表

○充足率推移 (%)



待機者がほぼいない状況で、役所へ入所希望者の問い合わせを何度も行ったが、コロナで相談件数が減っていることやほぼ全区の担当者が入れ替わり、状況が把握できていない区が多く、入所者を探すのに苦労した1年であった。今年度は何とか充足率100%を達成できたが、このような状況は今後も続くと思われる、厳しい状況である。

○入退所等内訳表 (人)

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
① 令和3年度	9	10	14	12	4	0

○介護度別年齢別等人数表

令和4年3月31日時点での在籍数

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
非該当	6	2	4	83.0歳	3	1	2	88.4歳
要支援1	10	3	7	83.7歳	8	2	6	84.8歳
要支援2	3	1	2	83.5歳	6	3	3	82.8歳
要介護1	20	3	17	83.5歳	30	7	23	84.0歳
2	15	4	11	87.0歳	12	4	8	84.0歳
3	7	1	6	88.7歳	6	1	5	85.8歳
4	5	2	3	85.1歳	4	1	3	84.7歳
5	3	0	3	88.5歳	1	0	1	96.2歳
合計	69	16	53		70	19	51	
平均介護度		1.72	1.81	1.79		1.2	1.4	1.3
平均年齢		82.9歳	86.9歳	86歳		82.7歳	86.4歳	85.4歳
最高年齢		92歳	98歳			90歳	101歳	
最小年齢		71歳	73歳			71歳	71歳	

4. <リスクマネジメント報告>

①報告件数

令和3年度	令和2年度
128件	123件

②発生内容別件数

○事故内容



③リスクマネジメントまとめ

前年度と比較して事故件数については5件増加する。発生内容別では転倒事故が最も多い。比較のお元気な方が多く歩行時による転倒事故が毎年のように多くなっている。

2年度ではリハビリの意識が全体的に低かったと思われ、3年度からは本格的にタイムスケジュールに組み込んだりするなど対象のゲストに対しADLの向上を図った。

コロナ禍による行動制限もあり、クラブ活動や体操の制限もあったことから全体的にADLが低くなってしまった事も要因と思われる。4年度からはコロナ禍の緩和を期待しクラブ活動など前年度に不十分であったところを補いながらADL向上を図り事故件数の減少を目標とする。

4. <苦情・相談結果報告>

☆苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

報告件数

報告件数	令和3年度			令和2年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	17件	1件	16件		7件	0件	7件

まとめ

同じ方からの相談が多かった。1件解決に至らなかった苦情もあり、言葉の行き違いや不信感を抱かせる言葉掛けがあったのではないかと反省すべき点も見えた。

5. <新型コロナウイルス感染症報告>

○発生件数

陽性者(職員)	陽性者(ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
2件	3件	¥361,387	¥779,430

※ 補助金 779,430 円のうち 576,000 円は保健所要請による施設内療養に対する補助金

○新型コロナウイルス感染症まとめ

- ・ 毎日リモート会議を行い、感染状況の把握、予防や対策について決定又は周知を行った。
- ・ 発生時の対応フローチャート作成及び事業継続計画（BCP）作成に着手。
- ・ 2月5日職員1名コロナ陽性者出て、ゲスト70名の抗原検査実施。結果陽性者2名。弥勒園の感染棟へ移動し療養期間を過ごす。2週間全ゲスト居室対応であったため、ゲストのADLの低下は顕著に見られた。感染者が弥勒園で療養期間を過ごしたことや居室対応によりその他の感染者は出ず、2週間ほどで終息する。
- ・ 3月28日職員1名コロナ陽性者。3月30日熱発しているゲストに抗原検査実施。結果陽性。透析のゲストであった為、入院となる。年度を超えて居室対応・感染対応を行っている。

6. <<総括>>

今年度もコロナに振りまわされる1年であった。ただ昨年度より、職員一人一人がコロナ感染を考えながら行事やクラブを実施できるように行動でき、行事を実施して行けたと思う。ゲストの希望は自由な外出であったが、感染者が減少しない中での外出の要望に応える事ができなかった。感染に関しては自部署だけの問題ではないため、今後もしたらコロナ感染症に気を付けながらゲストの希望に応じて行けるかを考え、動いていきたい。

年度をまたいでのコロナ感染症対応をしているため、早期の終息に向けて動きたい。

令和3年度 事業報告書

指定特定施設入所者生活介護事業所 大慈吉祥園

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. <令和3年度重点目標・行動計画>

『ゲストも職員も楽しいと思える場所にする』

※大慈吉祥園に準ずる

3. <職員体制>

管理者 1名	介護支援専門員 1名（吉祥園の相談員兼務）	支援員 6名
	相談員 1名（吉祥園主任相談員兼務）	

令和3年度 事業報告書

ヘルパーステーション大慈

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的・肉体的な援助を行う。又、ゲストの皆様との人間関係を深め、笑顔を忘れず“生活の場”として、利用された方及びご家族に満足していただけるサービスを提供する。

2. 《令和3年度重点目標 行動計画》

※大慈吉祥園に準ずる

3. 《職員体制》

管理者 1名	サービス提供責任者 3名 (訪問介護兼任)	訪問介護職員 4名
--------	-----------------------	-----------

1. 《基本方針》

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、入居者一人一人の意思及び人格を尊重し、入居者の居宅における生活への復帰を念頭に置いて、入居前の居宅における生活と入居後の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいて入居者が相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. 《最終目標》

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 《令和3年度 施設の目標》

① 当たり前を当たり前以上に（整容について・負担のない介護）

昨年度に引き続き、整容することに目標を置き、全体で取り組んだ。結果、少しずつ意識は傾き完ぺきとは言えないが、時間がないので出来ない、後でしようと思ったなどの声が少なくなり、管理職が巡回することで、意識も高まっていった。また負担のない介護については、座位姿勢に重点を置き、無理のない姿勢で座れているかなど、フロア毎に取り組んだ（会議で話し合う、専門職を交え正しい座り方の写真を撮影し見て分かる工夫をした）
次年度の目標にはないが、整容や姿勢に意識が高まるよう管理職は、巡回を継続していく。

② マナー向上（きれいな言葉と笑顔の提供）

管理職との面談を行い、マナーについて話し合う機会を作った。基本的には出来ているが、欠勤が出て忙しくなるなど、通常業務以外のことが入るとバタバタして余裕がなくなると聞く。業務の見直しやその日の状況に合わせた業務にするなど、職員から聞き取りストレスがたまらないよう、リーダー、サブリーダーにフィードバックし、リーダーとの面談を月に1回行うことで職員がストレスなく仕事ができるよう体制を整えた。

③ レクリエーション・余暇活動の提供（ゲストの楽しみづくり）

前月に次月のレクリエーションの企画を計画し実行することで、ゲストに楽しみの時間を提供することが出来た。参加するゲストが決まってくるので、個々に合わせたレクリエーションを検討し個別での対応も考えた（手浴・足浴など）大きな行事としてはコロナ渦のため中止しているため、フロア内で出来る行事を実行した。ゲストと普段にはない会話が出来たり、発想の違いなどが笑いとなり、良い刺激にもなったと感じた。

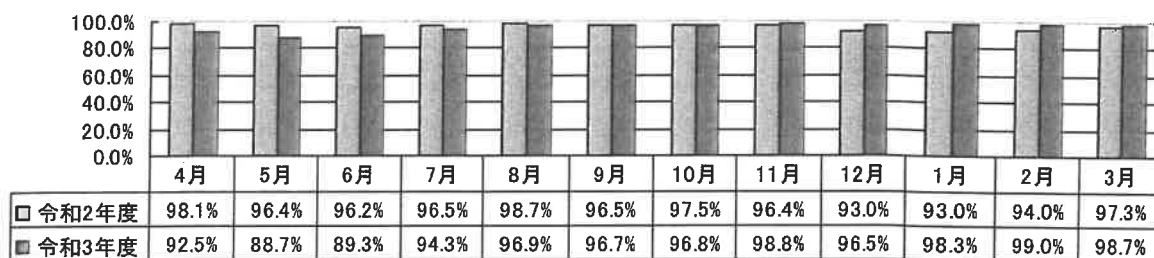
④ メソッドの継続（介護技術標準を活用し教育していく）

介護技術標準を活用し新人教育に注意する点や目で確認する事の重要性を伝え教育していき新人への教育に生かすことは出来た。また会議を重ねていく中で、愛情カードを作り、職員に注意を促し出来ていたら褒める体制を作った。今後は運用しながら見直しをしていく。

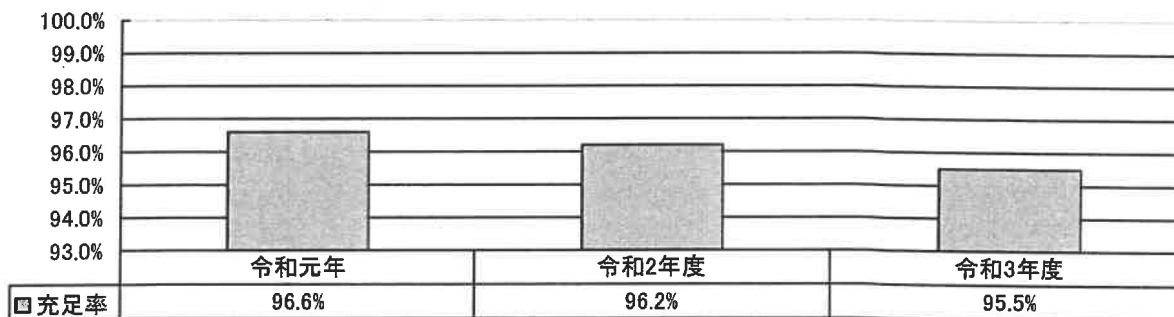
4. <<経営部門>>目標：充足率（95.5%）

目標は98%であったが、95.5%にとどまった。理由はコロナ発生により、4月、5月と新入居受け入れが中止、となったことが要因と考える。6月より受け入れ再開のため、各事業所にFAXを送信し空き状況のお知らせを行い入居者の確保に努めた。7月頃より目標に近い数字となり、夏以降は上回る結果となった。入院となったケースでもSWと連絡を取り状況を確認し、空床利用や先を見通し入居につなげるなど稼働率を上げる話し合いを行った。施設での看取り（今年度15人）も増え、入院することなく最後まで本人やご家族が望む生活をサポートできるように体制を整えた。

●令和2・3年度月別充足率表



●※1 年度別充足率推移



●※2 入退所等内訳表（人）（延）

	入所	退所	入院	退院	死亡	外泊
①令和2年度	22	23	41	31	22	0
②令和3年度	32	31	32	27	27	0
増減②-①	10	8	-9	-4	5	0

●介護度別年齢別等人数表

令和4年3月31日時点での在籍数

平均滞在期間34ヶ月（男性31ヶ月、女性31ヶ月）

最高滞在期間83ヶ月

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
1	0	0	0		0	0	0	
2	1	0	1	92	3	0	3	94.3
3	25	7	18	88.4	24	3	21	89.4
4	28	5	23	87.5	22	7	15	88.2
5	16	3	13	82.8	20	3	17	85.7
合計	70	15	55	86.8	69	13	56	88.2
平均介護度		3.7	3.8	3.8		4.0	3.8	3.9
平均年齢		83.7	87.6	86.8		83.6	88.6	88.2
最高年齢		97	101			95	100	
最小年齢		64	71			69	69	

5. 《OFF-JT》

日付	研修内容	参加人数
7/20	事故検討委員会より、リスクについて	7名
8/25	看取り介護、オンコールについて	7名
10/15	労働衛生 腰痛予防について	6名
11/24	感染委員会より	7名
3/15	事故検討委員会	4名
3/18	労働衛生・事業計画・個人情報・法令順守について	9名
9/13より複数回	虐待研修・身体拘束について	65名

6. 《年間実施行事》

月	年間行事	
	施設内行事	
4月	お花見散歩	各フロアにて時間を調整し密にならないよう園庭へ出かけ花見を鑑賞した。
5月	こいのぼり、母の日（おやつ）	こいのぼりの鑑賞は企画が間に合わず鑑賞できなかった。母の日のマフィン作りに参加していただいた。
6月	父の日（おやつ）	ノンアルコールのビールとお酒をお昼に提供、男性ゲストは久しぶりのビールとお酒に笑顔がこぼれた。
7月	七夕（ちらし寿司）	フロアで笹を用意しそれぞれのお願い事を短冊に書いていただいた。
8月	ちいさい花火大会（夏のそうめん）	園庭にてフロアごとに花火を楽しむ、手持ち花火で緊張している姿や打ち上げ花火を鑑賞し笑顔が見られた。

9月	お月見会・敬老の日（巻き寿司）	焼き芋行事を企画・敬老の日には紅白饅頭を提供した。
10月	秋祭り・秋の味覚土鍋	全体でのお祭りは中止し、きのこ・さつまいもを使用し秋を感じて頂く土鍋ご飯を用意した。
11月	冬の土鍋雑炊	各フロアのリビングで雑炊を炊くことで視覚と嗅覚で楽しむことが出来た。
12月	クリスマス会・年越しそば	各フロアで企画しクリスマスプレゼント・ケーキを作成する。フロアはクリスマス様に装飾した。
1月	初詣（おせち・七草がゆ、鏡開き）	園内で出来るように鳥居と賽銭箱を用意、神主と巫女に扮装、虎の小物を用意しお正月気分を味わっていただいた。
2月	節分・バレンタイン	鬼に扮装した職員を豆まき行事で退治して頂いた、バレンタインのチョコレートづくりにも参加していただいた。
3月	ひな祭り・土鍋ご飯	各フロアにひな人形を飾った。リビングで土鍋を炊くことで視覚と嗅覚で楽しむことが出来た。

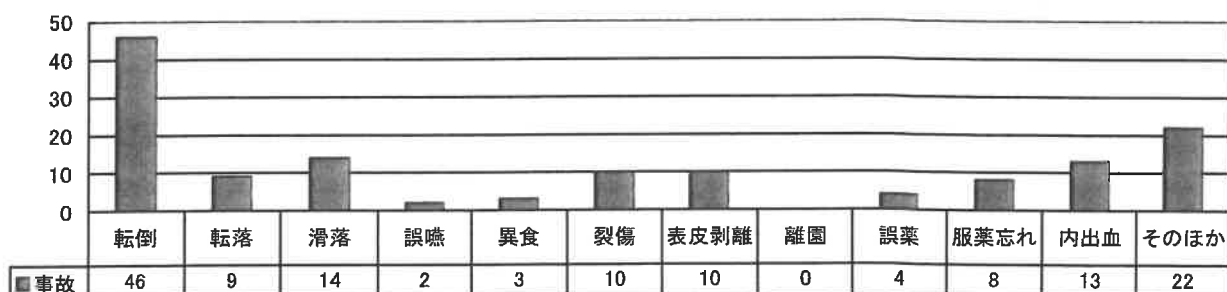
7.《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数

	令和3年度	令和2年度
事故件数	141 件	161 件

② 発生内容別件数



③まとめ

事故件数は昨年より20件減少している。転倒事故が46件でそのうち32件が同じ5名の方の転倒事故であり、リスクの高い方の転倒事故が多かった。また服薬事故と服薬忘れが3番目に多く12件となっている。メソッドの取入れで服薬事故をなくす試みをしてきたが、見える化、確認することで逆に件数が増えたと推測される。服薬事故件数減少に関しては、今後も取り組んでいき次年度は減少となるよう努める。

8. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

●報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	39件	1件	38件		41件	3件	38件

●まとめ

昨年同様、生活を送るうえでの小さな相談や情報共有のミスが多かった。今年度は、出入りしている訪問リハビリの先生からの苦情があり、直接謝罪し説明する事となった。日頃からご家族への連絡を密に行っていることで、大きな苦情に発展することはなかった。次年度も大きな苦情とならないように情報共有を行い、スタッフのスキルアップができるように施設全体で取り組んでいく。

9. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

令和3年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用 (4月～5月) 神戸市提出分のみ	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
ショート	3人	2人	かかりまし人件費 (2,768,125円)	補助金 (3,766,000円) 見舞金 (540,000円)
特養	R4.1月 2人	2人	対策必要物品費用 (3,249,747円)	

コロナ発生による減収 (前月3月97.3%の収入を100 (31,449,955円として))

4月	92.5% (-4.8%)	-1,509,595円	8月	96.9% (-0.4%)	-125,799円
5月	88.7% (-8.6%)	-2,704,691円	9月	96.7% (-0.6%)	-188,699円
6月	89.3% (-8%)	-2,515,992円	10月	96.8% (-0.5%)	-157,249円
7月	94.3% (-3%)	-943,497円	11月	98.8% (+1.5%)	+471,748円

4月6日に病院より直接ご利用となったショートステイの方から新型コロナウイルス陽性が確認された。

病床ひっ迫により入院できず施設での対応となった。その後、最終的には職員3名の陽性と特養、ショートあわせて3名の利用者が陽性となり合計7名の感染が確認された。利用者のうち4名は、1名施設で看取り、2名が入院、1名は施設で回復となった。発生当初より保健所とのやり取りを行い、智音園でのゾーニングや感染対応を実施、他事業所からの応援もあり6月1日に通常事業再開が出来た。これを機にコロナ発生時のマニュアルを作成し、それぞれの施設での発生時を想定し勤務体制から応援体制の検討、必要物品の確保に努めた。その後も職員の体調管理に留意し、1サポート1手洗い・消毒の施行を徹底、職員や同居家族発熱時は、解熱後48時間症状なしで出勤可能とし、出勤時には抗原検査を行って業務に入ることとした。また新規利用者や退院者のPCR検査の必須、入居後4日間の居室対応を行うことで万が一ウイルスを持ち込んだとしても最小限で防止できるような体制を整えた。コロナ発生する前月の充足率は、97.3%であるが、4月は92.5%、5月88.7%、6月89.3%と続き、11月に98.8%となり、回復までに半年かかった。その後、施設でのゲストに陽性者は出なかったが、事務職員2人が令和4年1月に陽性が確認された。

10.《総括》

今年度の目標を達成することが出来なかった。理由の一つとして、コロナ陽性者を施設で療養するにあたり、収入減、経費の増大、体制の整備、職員のストレス増大となり、新型コロナウイルス感染症の対応や対策に振り回された一年であった。また申込書が届くとすぐに日程を調整し面接に訪問、待機者確保に努めた。またショート利用を促し、定期利用やロングショートからスムーズな入居へと繋げた。

昨年同様、新型コロナウイルス感染症に伴う影響で、面会制限や家族不参加の担当者会議の開催でご家族との交流機会は減った。リモート面会は継続しているが、毎月ご本人の写真を送ることでご家族にご本人のご様子を知っていただくように努めた。次年度は、ゲストの楽しみを見つけることで職員のモチベーションアップを図り、質の良い介護（思いやり）が提供できるように目標を立て取り組んでいく。コロナ禍での空床利用方法も検討し実行していく考えである。

令和3年度 事業報告書

大慈智音園ショートステイ

1. <基本方針>

老人福祉法・介護保険法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」及び法人訓を基本方針として、高齢者の人権を尊重し、自立を目指して、高齢者の精神的、身体的な援助を行う。又、居宅における生活と利用時の生活が継続したものとなるよう配慮しながら、各ユニットにおいてゲストが相互に社会関係を築き、自律的な日常生活を営むことができるサービスを提供する

2. <最終目標>

心・和み・笑顔 ～私達が将来入居したい施設を目指します～

「いつでも前向き」「私はあなたで、あなたは私」「共に楽しみ、共に笑う」

- ・全ての人々の心を大切にします
- ・全ての人々の和を大切にします
- ・全ての人々が笑顔になれる場所にします

3. 令和3年度 施設の目標

①当たり前を当たり前以上に（整容・負担のない介護）

大慈智音園同様

②マナー向上（きれいな言葉と笑顔の提供）

大慈智音園同様

③レクリエーション・余暇活動の提供（利用者の楽しみづくり）

毎日、利用ゲストの状態や趣味に合わせレクリエーションを行い楽しみづくりを行った。今年度もコロナ禍による制限のある中のレクリエーションの実施であるが1日3回のレクリエーションを行い、智音園独自のサービスを提供した。その事もあり、他事業所を利用するが『やっぱり智音園が良い』というお声も頂くことが出来た。

④メソッドの継続（介護技術標準を活用し教育していく）

大慈智音園同様

4. <経営部門>

①充足率の向上（目標：充足率 日中100%）

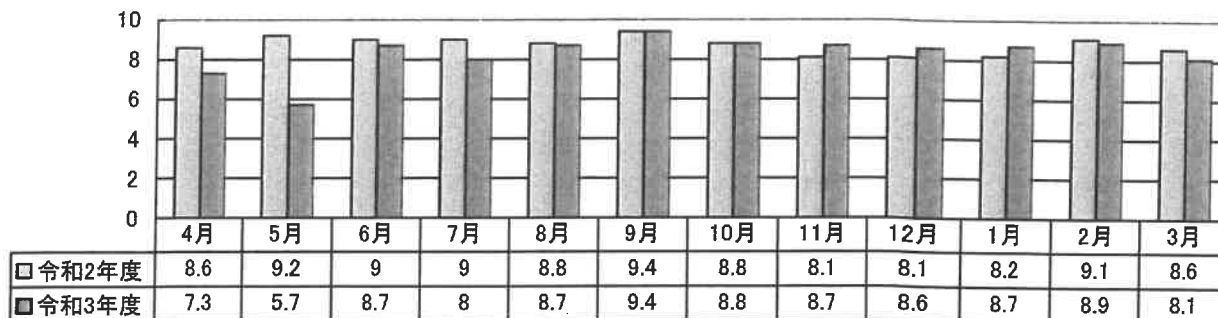
日中93%という結果となった。理由としては、4月5月にコロナ陽性ゲストが確認され、新規利用者の受入中止、入退所中止となった原因のほかに定期利用者が他事業所を利用し定期利用者を失った事も要因である。新規利用者獲得に向け病院や老健など営業活動を行い夏から冬にかけて日中満床となる日も多くみられたが、結果、目標を達成することが出来なかった。

次年度も引き続きコロナ渦での事業運営となるため、感染防止対策を徹底し独自のサービスの質を高め目標達成に向けて取り組みたい。

コロナ発生による減収（前月3月夜間86.8%の収入を100として）

4月 73.3% (-13.5%)	-638,914 円	7月 80.6% (-6.2%)	-293,427 円
5月 57.1% (-29.7%)	-1,405,611 円	8月 87.1% (+0.3%)	+14,198 円
6月 87% (+0.2%)	+9,465 円		

●平均人数→夜間8.7人（前年度 夜間8.3人）



●介護度別年齢別等人数表（令和4年3月31日時点での実人数）

要介護度	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男	女	平均	合計人数	男	女	平均
支援1	0	0	0		1	1	0	85
支援2	2	1	1	81	2	1	1	80
1	3	2	1	89	8	3	5	88.6
2	15	2	13	90.3	15	2	13	88
3	15	6	9	86.6	16	6	10	88.4
4	18	5	13	85.6	8	3	5	87.1
5	11	4	7	87.8	6	2	4	80.5
合計	64	20	44		56	18	38	
平均介護度		2.9	3.6	2.7		3.2	3.2	3.2
平均年齢		83.5	82.3	86.8		84.9	88.4	87.3
最高年齢		95	98			97	99	
最低年齢		70	67			64	63	

5. 《年間行事》

6. 《OFF-JT》

9. 《新型コロナウイルス感染症報告》



大慈智音園に準ずる

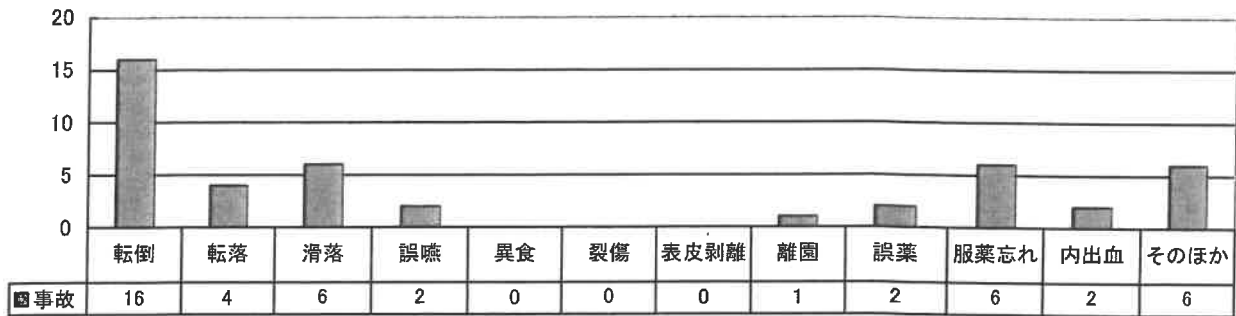
7. 《リスクマネジメント報告》

事故の定義→膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

	令和3年度	令和2年度
事故件数	45件	50件

②発生内容別件数



③まとめ

事故件数は5の減少がみられた。4名の特定ゲストの転倒や転落、滑落、内出血で16件となった。続いて服薬忘れがあり、特養同様、メソッド導入の見える化により発覚した事故件数増加と推測される。そのほかでは食事に関する誤配膳等があがってきた。今後も介護技術標準を使用し服薬時の事故減少に努める。

8. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→施設長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

報告件数	令和3年度			令和2年度			
	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	14件	1件	13件		8件	1件	7件

○まとめ

苦情相談件数としては、14件と少なめであり、苦情となった件数は1件であった。日常を集団生活で送る不満としての相談も多くあり、その都度対応した。その他は、説明不足、伝え方の問題等であり、職員には伝え方の難しさを理解してもらうよう指導していった。苦情の1件は、新型コロナウイルス陽性となったご家族からの苦情であり、施設での情報交換の仕組みや毎日の状態報告の悪さについて指摘された。結果、統括部長が謝罪に訪問することとなった。苦情でお聞きした内容については、施設で検討し同じ苦情が出ないようにコロナ発生時のマニュアルを作成した。

10. 《総括》

新年度早々にロングショートで受け入れた利用者が新型コロナウイルス陽性と診断があり、施設での療養に対応を迫られる2か月となった。その間はショートを受け入れを中止しロングショートで対応、通常運営は6月開始となった。そのため目標より遅れをとってのスタートであった。6月からは多くの施設や事業所へ連絡し利用者獲得に努め、8月末には通常の充足率に戻ることが出来た。

今年度は、ショートステイで身体拘束にあたる事案が発生し神戸市に報告を行った。現場との間に信頼関係が築けていなかった結果である。このような事が二度とおこらないように、全体での研修を数回にわけて行い事案の報告、今後の対応を全職員で考えた。また管理職は研修を受け、現場とのコミュニケーションの取り方を勉強するとともにリーダーを育成することを考え、相談できる環境の整備をしている。引き続き、研修を受講しながら管理職のすべき事を学んでいくことが必要である。

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を決やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

3. 《令和3年度重点目標》

<ケア部門>

①ゲスト目線でのケアが提供できるようになる

- ・24時間シートを作成し、それに合わせたタイムテーブルでサービス提供を行う

②指導・サポートの統一した活用方法を検討し実行する

- ・「食事」「入浴」「排泄」「移乗」等についてのサポート方法を24時間シートに記載し、それを用いて指導を行う

③認知症ゲスト対応のスキル向上を図る

- ・各フロアで認知症ゲストの特徴をあげ、どのようなサポートを行っているか毎月のリーダー会議で報告する
- ・報告事例に対し各フロアスタッフで話し合い、実行・評価を行うことでスキル向上を図る

●まとめ

目標の24時間シートの進行状況は、ゲストと職員への聞き取りを行い、現在のゲストの状態、現状のサポートを個別に挙げるまでは作成できたが、まだまだ完成度は低いと考える。食事・排泄・入浴等に関して、ほぼ統一したサポート方法で実施できているように思われるが、下記で述べる苦情・相談では、情報共有ができていない。また、気付きや配慮に欠けるような事例も多数あった。次年度では、職員教育のツールとして、すべきケアを言語化しケアの標準化を図っていきたい。そのためにもスタッフ間で適切な情報収集とデータ共有、定期的な見直しと更新を確実にを行い、マンネリ化しないよう意識づけをしていくと同時にケアプラン内容も盛り込みケアプランに沿った支援に繋げていきたいと考える。

<経営部門>

①在籍率97%以上、在園率95%を維持する

- A) 確実な待機者数5名以上確保しておく(定期的な連絡を実施する)

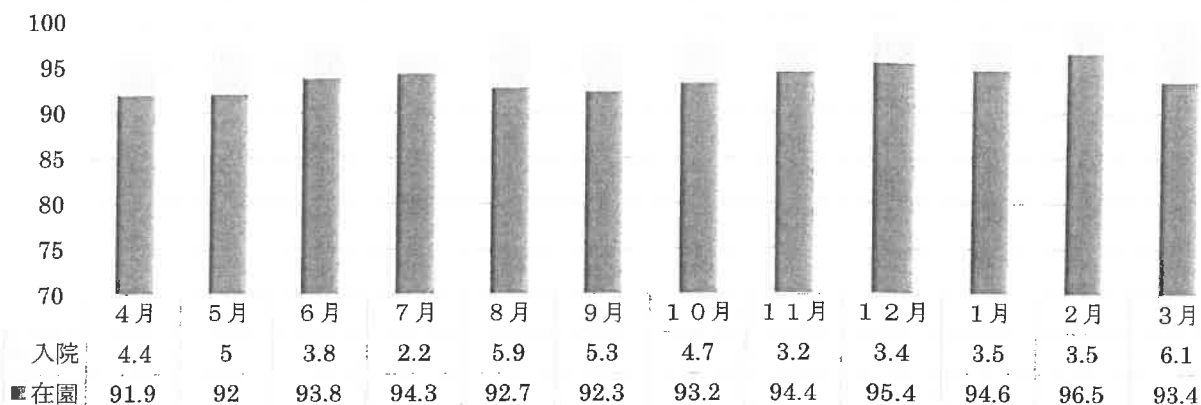
B) 入院者が必要最小限の入院期間で退院できるよう、病院と連携し、情報の交換に努める

②人材確保と育成

A) 離職防止・定着対策の推進

・毎月の面談を実施する

●充足率



●介護度別年齢別等人数表 令和4年3月31日時点での在籍数

最長滞在期間：13年9か月 平均年齢：90.83歳

要介護	令和3年度				令和2年度			
	合計人数	男性	女性	平均年齢	合計人数	男性	女性	平均年齢
非該当	4	1	3	89.81	4	1	3	88.81
支援1	14	3	11	90.84	6	1	5	88.89
支援2	9	4	5	88.41	11	6	5	89.13
介護1	11	1	10	90.19	14	3	11	89.83
介護2	14	4	10	92.02	16	3	13	99.99
介護3	12	1	11	90.58	9	1	8	88.94
介護4	18	5	13	89.77	15	5	10	89.15
介護5	7	1	6	94.17	11	1	10	93.84
合計	89	20	69		86	21	65	
平均介護度	3.0	3.1	2.9		2.9	2.7	3.1	
最小年齢		67	81			68	81	
最高年齢		98	99			98	98	
平均年齢		90.74	90.86	90.83		89.1	90.51	90.13

今年度、入居者14名、退居者14名（内死亡10名、他施設移動4名）あった。死亡10名の内、看取りを行ったのは8名であり、今後さらに看取りケアを充実させていきたい。

●まとめ

在籍率98.1%で目標を達成することができた。大きな要因として、ショートステイさくらの知名度が上がり、ショートステイの利用体験から信頼を得たうえでケアハウス入居に繋がるケースが多かった。結果、今年度はショートステイさくらの充足率を少し下げた結果にはなったが、

入居の充足率を高水準で維持できたと考える。

しかし、平均年齢が90歳代と高齢化しており、滞在年数が短くなっている。その分、待機者数を増やす必要がある。今年度は、新型コロナウイルス感染症流行のため、病院、居宅支援事業所等への営業活動が制限されたが、次年度は感染症等も踏まえて営業方法を考えていきたい。人材確保と育成については、新規雇用があったことで派遣職員の大幅な減少に繋がった。また、安定したことで離職率を大幅に下げることができた。育成に関して、新型コロナウイルス感染症流行により、外部への研修や施設内研修ができなかったが、次年度には感染症流行が続きと考えた上で必要な研修等を入れていきたい。

4. <環境整備計画>

大規模修繕計画を作成し、経年劣化による修繕と業務効率を意識した整備を実施する

- ① PHS・Wi-Fiの環境整備
- ② 空調関係整備
- ③ その他（整備関連工事）

●まとめ

空調関係の整備を行った。（令和4年2月完成 費用7,865万）
PHS・Wi-Fiの環境整備は次年度以降に持ち越す

5. <地域貢献事業>

- ① 社会貢献委員会が主催する行事
- ② ほっとかへんネットKOBÉ・西との連携

●まとめ

新型コロナウイルス感染症流行のため、主だった地域行事が中止、チェリッシュレストラン地域開放中止、3回/日の最寄り駅送迎の定期便も中止とした。

6. <職員会議・委員会等>

頻度	会議名			
月1回	法人運営会議	経営会議	会計会議	だいじな会議
	部門会議	営業会議	リーダー会議	
随時	ケアカンファレンス			

<委員会活動>

委員会名		
労働衛生委員会	チェリッシュ委員会	行事委員会
災害・設備委員会	感染防止対策	リスクマネジメント委員会
サービス向上委員会	褥瘡検討委員会	身体拘束廃止委員会
事業戦略推進会議	予算管理委員会	

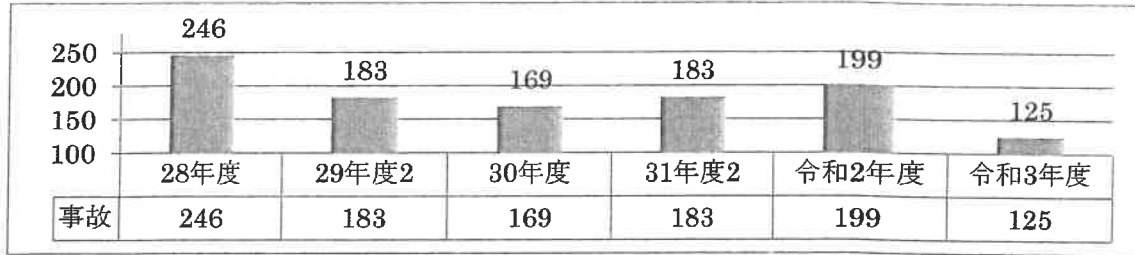
●まとめ

会議・委員会は1回/月ほぼ実施した。だいじな会議の中にサービス向上委員会、看取り・褥瘡委員会を組み込み、各専門職とリーダーが話し合い、結果を各フロアに周知させた。身体拘束廃止・虐待防止研修等の内部研修は2回/年、日を分け開催したが、その他の必要な内部研修に関してはリモート等を活用した。コロナ禍のため、ビデオ鑑賞・資料等を配布しアンケート形式を取った。

7. 《リスクマネジメント報告》

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

①報告件数

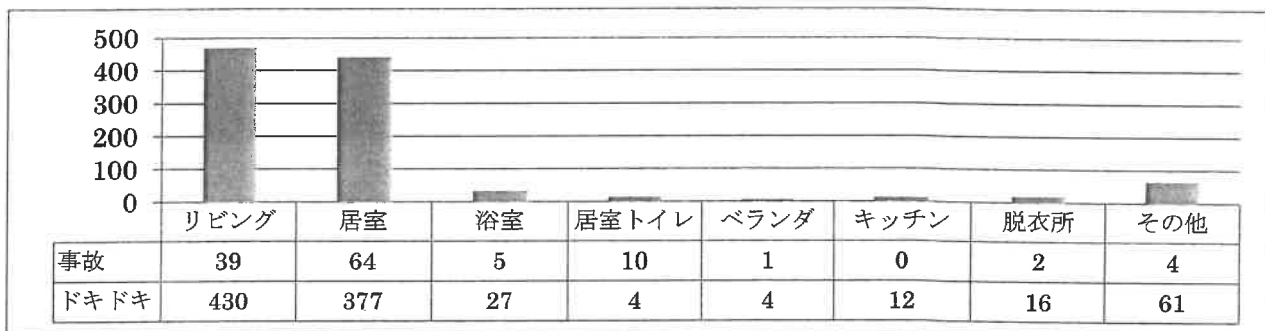


令和3年度			令和2年度				
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	1056件	125件	931件		1170件	199件	1071件

○内訳

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
2F	65件	9件	56件	2F	108件	20件	88件
3F	235件	35件	200件	3F	161件	32件	129件
4F	165件	33件	132件	4F	288件	34件	254件
5F	372件	27件	345件	5F	411件	55件	356件
6F	219件	21件	198件	6F	303件	58件	245件

②発生場所別件数



●分析結果・まとめ

- ・事故の場所では、居室での事故、ドキドキが多い。
→要因として目が届きにくく見守りが困難。さらなる危険予測・予防策が必要である。また、同時に安全かつ、快適な空間で過ごしていただけるような環境を整えていく必要がある。
- ・事故の内容では、転倒、滑落事故が多い。
→要因として平均介護度が上がっており、下肢筋力の低下や認知症等による理解力の低下が考えられる。今以上に機能訓練指導員や看護師などと連携しながら対応していく必要がある。
- ・前年度は「無断外出の恐れ」が16件だったが、今年度は29件であり、増加傾向にある。
→要因の一つとして認知症の進行が考えられる。施設全体で対策を講じていく必要がある。今年度は事故件数が74件減少しており、ドキドキの時点での対応策が効果として表れていると考える。委員会において、各フロアを見学しリスクに繋がる環境やゲストの状態把握に努めた

が、新型コロナウイルス感染症流行に伴い実施できないことが多く、紙面上での報告に留まった。次年度のリスク委員会の取り組みとして、毎月1フロアよりヒヤリハット及び事故発生率の高いゲストに焦点を当てプラン内容、24時間シートを持ち寄り、記録としてリスク回避、又は、対応策がリンクしているかを確認し、話し合っていく。必要時には、該当フロアへ状態把握にあがるようにしていきたい。

8. <<苦情・相談結果報告>>

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする

<報告件数>

報告件数	令和3年度			報告件数	令和2年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	57	0	57		13	2	11

●まとめ

今年度は、細かいところまで相談事項に計上した。苦情に繋がることはなかったが、職員の介護方法、伝達・説明の不足、対応の仕方等、サービスの質について改善必要な相談が多くあった。

主な内容として、受診時の準備・整容ができていない、職員間で必要な情報の共有ができていなかったため対応が遅れた等、職員間での連携不足や配慮不足に起因するものが多かった。ご家族やゲストの思い・要望など把握し、職員間での役割や責任などを明確にして情報の共有化を図っていきたいと考える。

9. <<新型コロナウイルス感染症報告>>

●発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
1件	0件	¥960,857	¥929,637

●まとめ

4月にパート職員一人にコロナ陽性者が出たが、園内消毒、フロア閉鎖など行い、ゲスト・他職員への感染はなかった。その他、家族が陽性、学校関係閉鎖等により職員の自宅待機が多かったが、感染拡大には至らなかった。

【補助金・見舞金】

- ・感染防止対策支援事業補助金(兵庫県)、広域感染症対策救援事業(全老協)、介護事業者等サービス継続支援事業(神戸市)、コロナ見舞金(経営協)

10. <<総括>>

新型コロナウイルス感染症流行に伴い、緊張した一年であったが、4月に職員一人陽性者出ただけに留まり、ゲストに大きな影響が出なかったことは幸いであった。感染症蔓延防止策を徹底するために、外出・面会の中止、イベントや慰問、クラブ活動の中止など、ゲスト・職員共に窮屈でたくさんのご不便をお掛けした一年であった。今後も続くと思われる感染症に対して、先ずゲストの安全を担保しながら、コロナ渦でも変わらず日常生活を楽しんでいただくにはどうしたら良いかという視点を持ち、私たちがそれぞれの立場に立って今できることを考えていきたい

1. 《基本方針》

法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき、ゲストの人権を尊重し、自分らしく心豊かに生活を送っていただけることを目指し努力する。いつでも笑顔を絶やさず、思いやり・真心をこめて接することでゲストとの心のつながりを大切にする。ゲストが安全で健康的な暮らしができるようサポートする。

2. 《最終目標》

いきいきのびのびスマイリー運動

みんなが生き生き・みんなが伸び伸び・みんなが笑顔

(みんなとは、ゲスト・ご家族・職員を指します)

- ・生きがい・やりがいを大切にします
- ・自分らしさを大切にします
- ・自然と笑顔溢れる温かい雰囲気を大切にします
- ・みんながしあわせになることを目指します

《令和3年度重点目標》

＜ケア部門＞

①ゲスト目線でのケアが提供できるようになる

- ・24時間シートを作成し、それに合わせたタイムテーブルでサービス提供を行う

②指導・サポートの統一した活用方法を検討し実行する

- ・「食事」「入浴」「排泄」「移乗」等についてのサポート方法を24時間シートに記載し、それを用いて指導を行う

③認知症ゲスト対応のスキル向上を図る

- ・各フロアで認知症ゲストの特徴をあげ、どのようなサポートを行っているか毎月のリーダー会議で報告する
- ・報告事例に対し各フロアスタッフで話し合い、実行・評価を行うことでスキル向上を図る

●まとめ

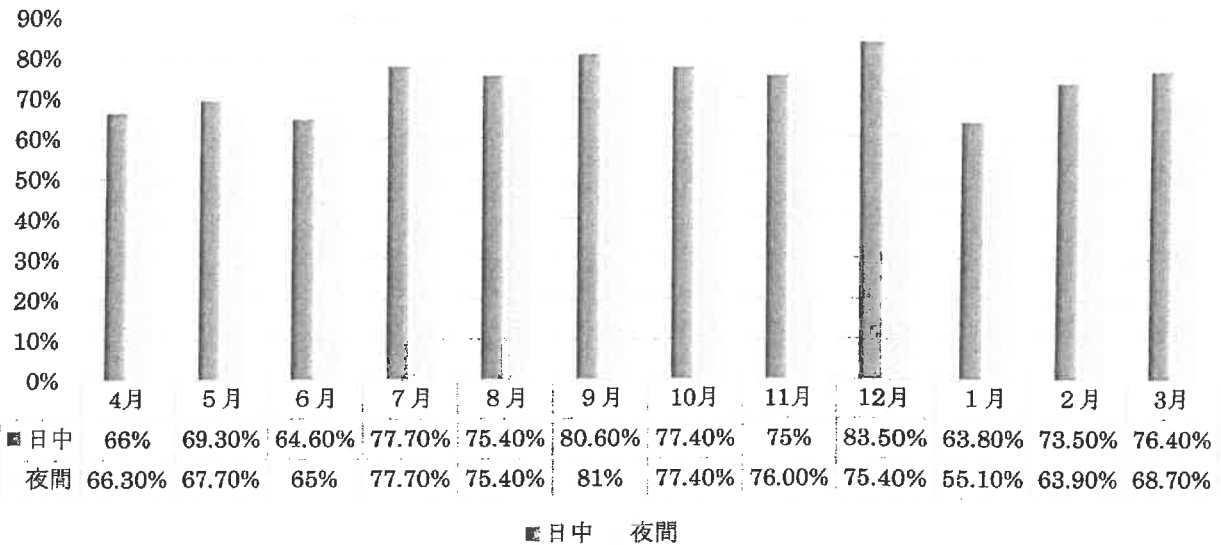
24時間シートの作成には至らなかったが、ご自宅での生活の様子を写真に撮らせていただきショートでもご自宅に近い環境の中で安心してサービスが利用・提供できるように努めた。個々のご要望に応じて余暇活動の選定やサービス等を行い、ゲスト目線でのケアを意識した取り組みができたと考える。困難事例に関しては、フロア会議、ショートステイ運営会議、リーダー会議等で議題に挙げ、解決に向けた取り組みを行った。また、退所時にご利用中の様子や写真をお渡しすることでリピート利用に繋がったと考える。次年度もゲスト目線でのケアのスキルや意識向上を図るとともに、余暇活動の充実や職員教育、ケアマネジャーとの信頼、関係性の向上を図り、地域から選ばれるショートステイを目指していきたい。

<経営部門>

①充足率の向上（目標95%以上）

- ・空きベッドの公開、外部への連絡調整を行う
- ・ケアカンファレンスへ参加し、ケアマネジャーとの情報交換に努める

②定期的な営業活動の実施



●まとめ

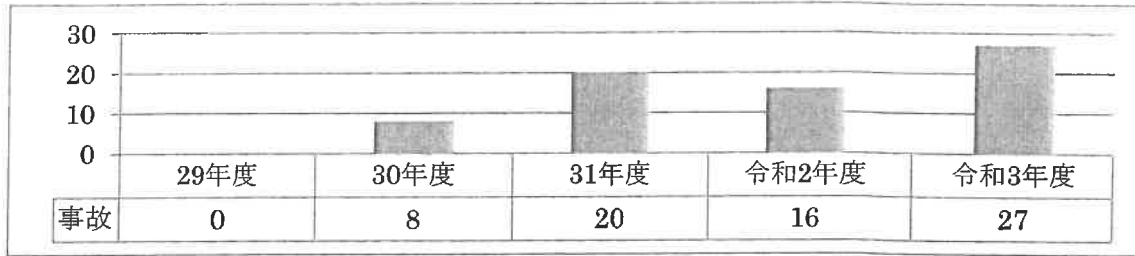
今年度前半の充足率は、昨年同様、新型コロナウイルス感染症の影響が出ており、新規受け入れが難しい状況が続いた。また、定期利用のゲストの体調不良による入院、特養への入所、ケアハウス大慈への入居などにより、目標の充足率95%を大きく下回った。しかしながら、地域での知名度も徐々に上がってきており高評価をいただけるようになった。キャンセルが出た場合の補充の対応に課題が残っている。ラインワークスの利用や空所情報をFAXでお知らせしているが、まだまだ不十分と考える。ショート的人员配置も落ち着いており、緊急入所にも臨機応変に対応できるようになっている。今後は、余暇活動の充実等を図りリピートを増やすとともに、ご家族や居宅介護支援事業所との連携を更に深め、ロングショートの確保と新規利用を増やしていきたい。

- 3. <<環境整備計画>>
 - 4. <<地域貢献事業>>
 - 5. <<職員会議等>>
 - 6. <<月行事・行事食・年間行事>>
 - 7. <<職員構成>>
 - 10. <<新型コロナウイルス感染症報告>>
- } ケアハウス大慈に準ずる

8. <<リスクマネジメント報告>>

☆事故の定義・・・膝が地面に接地した時点で事故とみなす。

① 報告件数



令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	事故	ドキドキ	報告件数	合計件数	事故	ドキドキ
	97件	27件	70件		73件	16件	57件



●まとめ

今年度は前年度に比べるとドキドキ報告件数・事故件数共に増えている。とりわけ、居室での転倒事故が多い。今後より一層、対策を講じ、安全に過ごしていただけるように努めていく。今年度の取り組みとして、ドキドキ報告書の時点で、対策について施設内だけに留まらず、ご家族や担当ケアマネジャーと連携を密にとりながら対策を講じることで、重大な事故や体調悪化を防ぐことができた。今後もご本人はもちろん、ご家族・担当ケアマネジャーからの情報収集を密に行い、安全・安心な環境を整えていけるように取り組んでいく。

9. <<苦情・相談>>

苦情の定義・・・施設長が直接対応した件を苦情とする

<報告件数>

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	2	0	2		0	0	0

●まとめ

ショートご利用中に赤ちゃん人形を抱いて笑顔で写っている写真をご家族にお渡ししたが、ご家族が不快に思われた件、男性職員が多いこともありトイレなど声を掛けにくい様子であるとご家族からの相談の2件であった。ご家族の受け取り方、ご本人の言動等で気になる様子があれば、記録と情報の共有、また、ご家族・ゲスト個々により思いは違うということを認識し配慮のあるサポートを心がけていきたい。

1 1. <<総括>>

新規利用・リピーターが定着しつつあるところで、新型コロナウイルス感染の拡大などによるキャンセルや体調不良、ショートから入居への移行が多かった等、結果、前年度より稼働率を下げた。また、定期利用者の特養入所、ご利用者の入院等も響いている。しかし、ケアハウスショートとして、居宅介護支援事業所から好評をいただいていることで新規・リピートは伸びてきていると考える。体調不良や入院等によるキャンセルをいかに埋めていくか、ロングショート利用者の確保が次年度の大きな課題である。また、今年度は余暇活動の時間を取り入れてきたが、ケアハウス大慈の介護の質を高めると同時に行事やレクリエーションを活発に取り入れ、ショートステイさくらの付加価値を高めたいと考える。

令和3年度 事業報告書

西神南あんしんすこやかセンター

1. 《基本方針》

- ①介護保険制度をはじめとする市町村の介護・福祉行政の一翼を担う機関であることを認識し、公正中立な事業運営を行う。また、地域の特性や実情を常に把握し何事に対しても柔軟に対応をしていく
- ②職員相互で常に情報を共有し、互いの業務の理念・基本的な骨格といったものを理解した上で、連携・協働の体制を整え、地域包括支援センター業務全体をチームとして支えていく
- ③圏域の居宅介護支援事業所・介護サービス事業所・地域と密に連携をとり、地域包括ケアの充実を図る

2. 《実績》

○介護予防ケアプラン数

請求合計3,857件 前年比127件減
 (直営担当数: 2,183件 前年比41件増、委託数1,674件 前年比168件減)
 月平均は320件(前年332件)。コロナ禍によりサービスの利用を控えるケースや、利用控えから状態の悪化などもあり、要介護へ変更となるケースが今年度は非常に多かった。その分、併設居宅へ新規依頼をするケースも増加している。パート職員の勤務日数の増加により、直営ケースが増えた為、件数は減少したが収益としては増加している。
 新規ケース数は年間128件(前年比20件増)。月平均11件。
 緊急事態宣言、蔓延防止等重点措置が明けると、相談件数や利用開始につながるケースが多くあり、新規件数としては昨年よりも増加している。
 今後コロナの終息はまだ見えない状況ではあるが、第6波ではそれまでのような件数の顕著な減少は見られなかった。今後第7波も予測はできるが、圏域内高齢者数も8000人を超え更に増加傾向にある事もあり、今後相談件数や新規件数は増加していくことが見込まれる。

あんしんすこやかセンター 月別請求件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	185	179	178	179	177	177	179	184	183	191	186	185	2183
委託件数	133	139	137	138	139	139	144	146	141	140	132	146	1674

あんしんすこやかセンター 月別新規件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
直営件数	0	7	12	5	6	2	8	1	6	6	6	7	66
委託件数	4	0	7	3	2	1	5	7	3	3	5	2	42
新規合計	4	7	19	8	8	3	13	8	9	9	11	9	108

3. 《目標に対しての報告》

①相談対応の充実

A) 介護者支援の充実

在宅介護をされている方を対象に、介護リフレッシュ教室を年間6回（偶数月）開催。参加者同士が、ご自身の介護体験や悩みを話せる自助グループとしての役割を担っている。窓口相談に来られた認知症ケースのご家族や、近隣居宅への開催案内を行ない、新規の利用者も多い。

（内容）

4月：緊急事態宣言発令中にて中止

6月30日：日々の介護についての情報交換会（講師：認知症家族の会）

8月：緊急事態宣言発令中にて中止

10月16日：認知症介護のしかたについて

（講師：デイサービスあさんて管理者 加藤長年氏）

12月21日：クリスマス会

2月22日：日々の介護についての情報交換会（講師：認知症家族の会）

今年度はコロナ禍で緊急事態宣言中は神戸市からの要請もあり中止とした。その他開催についてもマスク、換気、手指消毒、検温等の感染対策を徹底して行った。

B) 地域力の向上

地域行事は今年度もコロナ禍で規模縮小や中止があった。地域行事には少人数で訪問し、参加者の状況や感染対策の確認などを行った。

（参加行事）西神南住宅集会所：カラオケ、フレイル予防支援事業

井吹北地域福祉センター：北町カフェ

ルゼフィール井吹台集会所：スマイル元気体操、練功十八法、

カフェいばしょ

グランコリーナ集会所：カフェぐらん 等

C) 地域の関係者との連携

◆圏域の事業所やケアマネジャーとの連携

圏域内居宅介護支援事業所に対し、ケアマネジャー情報交換会を開催。今年は、西神中央、平野西神、学園都市、西神南の4センター合同で開催。くらし支援ネットより講師をお招きし、「ケアマネの法的責任」について研修をしていただいた。

◆医療機関及び行政との連携

9月に開催した個別地域ケア会議をはじめ、ケース検討会議も年6回開催。その都度、必要時民生委員やかかりつけ医との情報共有も行っていった。また虐待ケースの対応やケア会議、困難ケースの相談など、適時行政や医療との連携を図った。

D) 相談窓口の周知徹底

◆地域住民への周知

今年度も昨年同様コロナ禍にて圏域内の給食会や喫茶の中止が相次いだ。緊急事態宣言解除後、再開された体操等の行事には可能な限り参加し、感染予防やフレイル予防の啓発も行った。今年度も7月にUR集会所にてフレイル講座を開催。介護保険制度の説明とフレイル予防の講座、あんしんすこやかセンターの啓発等を行った。

また、11月に開催した地域ネットワーク会議では、地域診断に基づいた、地域の現状を説明し、住民と共に地域課題について検討する機会も設けた。

◆職員の技術向上

神戸市の必須研修以外にも、外部研修にできるだけ参加する機会を設け、職員の資質向上に努めた。また参加した研修に関しては、会議にて他の職員への復講研修を行った。今年度も昨年同様コロナ禍にてZOOM等を利用したウェブ研修も積極的に取り入れ参加を

した。

(参加研修) 困難事例対応力向上研修、ご近所支え合いサミット、
西区歯科医師会多職種連携講演会、認知症の人の触法問題、
在宅介護支援センター協議会職員研修会 等々

E) 認知症事業の啓発

◆認知症サポーターの養成

昨年度に開催予定だった、井吹東児童館の子供たちを対象とした、認知症サポーター養成講座を11月に開催。またその後、子どもたちと、認知症高齢者声掛け訓練も開催した。それにより、地域の子供たちへの認知症の理解を高め、多世代での見守り支援体制の構築や、あんしんすこやかセンターの若い世代への啓発に繋がった。

◆認知症支援の充実

日々の認知症に関する相談支援の一環として、介護保険サービスの提案だけでなく、必要時相談者へ認知症神戸モデルの提案も随時行った。
オレンジチーム(認知症初期集中支援チーム)との連携により認知症を含む困難事例の検討や、認知症介護から虐待ケースとなっている事例に対しては区役所や担当ケアマネジャーと連携を取り解決に向けて支援を行った。

②介護予防の充実

A) 介護予防ケアマネジメントの充実

◆ケアマネジメントスキルの向上

神戸市主催の研修にも参加し、適正なケアマネジメントを行う事が出来ている。
月に1回、神戸市介護保険課より巡回訪問あり、指摘事項に関しても迅速に改善を行っている。

また、今年度より、職員のケアマネジメントスキルの向上、事例検討能力の向上の為に月1回の事例検討会を開催している。

B) 介護予防事業への推奨

日々の相談ケースに関し、必要時介護保険認定申請を行い、必要な介護予防サービスへつないでいる。既存のサービスだけでなく、地域の中のインフォーマルサービスなどにも繋いでいる。

③地域見守りの強化

A) 訪問活動の継続

地域や病院等から相談のあったケースや、虐待ケース等、適時訪問を行い現状の把握に努めている。また、介護保険サービスに繋がっていないケースなどは民生委員等にも協力を依頼し、見守り活動の継続が行えるよう支援している。

B) 地域団体との連携

今年度はコロナ禍により地域の行事の中止が相次いだ。地域関係者と顔を合わせる機会も半減したが、できる範囲で定例会等の会議に出席し、情報共有を行った。

C) コミュニティ作りの充実

コロナ禍にて地域行事がなかなか開催できない状況ではあったが、緊急事態宣言解除後、再開された行事については、感染対策の確認や参加者の状況確認等の為、随時訪問を行った。

また、集会所行事の再開が困難になっている市営住宅エリアにおいて、今後の立ち上げ支援に向け、地域でのつどい場開催に関する住民アンケートを随時実施した(令和4年度も継続中)。

4. 《会議》

		会議名	
開催	あんすこ・居宅内部会議(事業所内)	あんすこ会議(事業所内)、伝達会議	
	ケアマネジャー情報交換会	地域ケア会議	
参加	虐待コア会議	西区あんしんすこやかセンター連絡会	
	神戸包括ブロック会議	認知症初期集中支援チーム員会	
	西区実務社会	西区虐待防止検討委員会	
	各民児協定例会(井吹東・井吹西・櫛谷)		
	職種別連絡会(主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士)		
	西区地域ケア会議ワーキング		

5. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→センター長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		0件	0件	0件

地域行事に参加されていた住民から、匿名でセンターに電話。「参加していた職員が咳をしていた、今のご時世そういう職員が地域行事に参加するのはどうかと思う」との事。センター職員は出勤前に必ず検温を行い体調がすぐれない場合は出勤しないようにしている事をお伝えした。今後再度対応徹底する旨伝え、センター内でも情報共有し感染症ではない場合でも咳などがある場合は参加しない等対応を検討、周知した。

6. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者(職員)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等(見込み含む)
0件	¥47,210	¥0

緊急事態宣言発令中は、平日の勤務者数を減少させるため、日曜日も出勤日とし対応した。そういった勤務形態の変更やパーテーションの設置など環境面での変化もあり、職員間には戸惑いの声もあったが、逆に多面的に物事を見る機会にもあり、職員間でアイデアを出し合う事もあった。

家庭内で子供のクラスで陽性者が出た場合や、家族が陽性となったため濃厚接触者となり出勤できない状況になった職員もいたが、適時在宅ワークを導入する事も検討した。

7. <<総括>>

圏域内の高齢者数は年々増加しており、今年度8000人を超えた。高齢化率もこの10年で認知症を抱えたケースや、多問題が絡んだケースに関する相談が年々増加傾向にある。段階の世代の多い地域は、10年で高齢化率が10%近く上昇し、50台後半から60台の人口が多い為、今後も更に高齢化率の上昇は継続すると思われる。

今年度もコロナ禍により、センターに相談に来られるケースが減少、サービスの利用を控えるケースも多く、プラン総数も前年度より127件減少している。しかし、直営件数は増加しており、収益としては増加。今後もコスト意識を持ち、直営プラン数の維持に努めたい。

コロナ禍により高齢者の外出機会が減少し、その為に身体機能や認知機能の低下を訴える相談が増えてきている。コロナ禍での地域行事の開催支援や、フレイル予防の観点からの新たな集い場の立ち上げなどの必要性も増しており、地域でのアンケート調査なども実施している。今後はその結果も検討し、地域での支援を継続していきたい。

事業所内では感染対策を徹底し、勤務形態の変更やパーテーションの設置、消毒や換気の徹底など、各職員が意識を持って取り組む事ができた。次年度も社会の情勢に合わせ、引き続き職員の健康管理や感染対策に努めていきたい。

令和3年度 事業報告書

居宅介護支援事業所 大慈園

1. <基本方針>

- ①可能な限り住み慣れた地域においてその有する能力に応じ、自立した日常生活を営む事ができるよう支援する
- ②公正中立な立場で、自己決定ができるように援助する
- ③質の高いケアマネジメントの推進
- ④医療と介護の連携強化

2. <最終目標>

「豊かで安心できる在宅生活の実現」

- ・介護が必要な状態になっても住み慣れた自宅で最期まで過ごせるよう、様々な社会資源を活用し生活をサポートしていく。
- ・施設利用となっても、本人・家族の思いを受け止め、決断に寄り添い精神的なサポートを行う。

3. <実績>

請求実績 1610件 (昨年度より77件増)

月平均 134.1件 (昨年度より5%増)

月別・介護度別請求内訳

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
要介護1・2	81	75	78	76	76	75	75	73	77	75	75	78	914
要介護3・4・5	59	56	63	61	61	62	57	58	48	56	56	59	696
合計	140	131	141	137	137	137	132	131	125	131	131	143	1610

<<実績まとめ>>

新規担当は63件と前年比21件減少したが請求件数は77件増え5%増加となった。今年度4月に認定調査員兼任の新人職員を採用し増員となったことで、月平均145件請求をめざしていたが利用者からの苦情が続いた事から本人希望にて3か月で吉祥園異動、その後退職となった。1月に法人内異動にて再度5名体制となったが未経験者の為年度内に目標件数に到達することができなかった。介護度別では要介護1・2が57%（前年61%）、要介護3・4・5が43%（前年38%）と昨年度に比べ要介護3・4・5の比率が増えた事で件数5%増に対し収益は7%増となった。昨年度に続き、業務効率化に向けた取り組みを継続。備品の配置変更や議事録の印刷中止など行った。最も成果を挙げたこととしては提供票の郵送作業中止であった。事務機メーカーに協力依頼しNWファックスにて送信することで、印刷代、コピー用紙、郵送費の削減のみならず郵送に係る業務負担軽減につながった。

①介護支援専門員としての資質の向上

- A) 相談援助技術向上の為の勉強会
- B) 報酬改定に関する勉強会と改定内容の理解
- C) 予防支援業務従事者研修受講、予防支援業務遂行の体制づくり
- D) 後進の育成

《資質の向上まとめ》

各自が決めたテーマで原稿作成、事業所内で発表を6回（介護支援専門員の倫理、初回面接、アセスメントにつながる質問、e文書法、障害福祉制度、自立支援医療、ケアマネジメントプロセス）、外部講師依頼しての研修を2回（ストレスを減らす対人関係、相続と介護の話）を計画通り実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から外部主催の研修はZOOM開催が多かったが、ひきこもり支援や自立支援型ケアマネジメント、など対人援助技術向上のための研修に参加し居宅会議で報告・共有することで学びに繋がった。

報酬改定に関する勉強会は、昨年度3月に変更内容全般確認済。6月にQA（vol.10）までの内容共有、2月に大規模デイトの算定方法確認、他随時QA発出の有無伝達会議で確認した。

令和3年度よりあんしんすこやかセンターが併設居宅に予防委託が可能となったことから予防支援研修を受け受託できる体制を整えた。結果的には2名の予防支援を行ったが当該利用者が認定途中で区分変更され要介護の認定を受けたこと、あんしんすこやかセンター職員が増員となり直営での担当が増えた事などから新たな委託ケースはなく、対象者は0名となった。

介護支援専門員実務研修「見学実習」は法人内から2名希望あり指導を実施した。

他事業所と連携して行う事例検討会は、年2回（7月と2月）を計画していたが、緊急事態宣言の為参集での企画会議開催できず前期分が10月に延期、2月はまん延防止措置期間であった事、感染者が爆発的に増加していた状況からやむなく中止となった。

②連携の強化

- A) 医療と介護の連携（在宅医・病院地域連携との情報共有、入退院加算収益の確保）
- B) 西神南あんしんすこやかセンター及び圏域外の地域包括支援センターとの連携
- C) 地域との連携と地域貢献行事の参加
- D) 伝達会議等を通じてケースの情報共有を行い、事業所内で連携できる体制づくり

《連携についてまとめ》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、多職種連携研修、地域行事への参加はなかった。病院での面会も制限（または禁止）されている状況は昨年度と同様だったが電話やファックス、ZOOMによるオンラインでの退院前カンファレンス参加し、退院退所加算9件、入院加算23件算定できた。認定未確定者の支援、身体拘束疑い等で西神南及び、西神中央、学園都市あんしんすこやかセンターと連携・報告し利用者支援を行った。

伝達会議でのケース報告事例が増え事業所として利用者を支援する体制が維持できた。

③更新認定調査委託業務の維持・継続

●月別認定調査件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
訪問	50	53	36	40	30	31	42	34	36	42	37	37	468
電話	0	17	8	3	1	12	3	0	0	0	0	0	44

《認定調査委託業務まとめ》

令和2年4月～5月コロナによる初の緊急事態宣言受け訪問調査全面中止。電話での聞き取りにて認定期間が12か月延長のとなった影響で令和3年度6月～7月の更新調査予定者数が増加した。今年度も4月5日～9月30日迄緊急事態宣言やまん延防止期間があった影響で5月～10月にかけて訪問調査を拒否され電話での聞き取りを希望される方が多かったが、令和3年度の訪問認定調査は468件と昨年度比122件増、電話聞き取りでの調査は44件と昨年度比29件減となった。認定調査員1名の退職に伴い2名雇用したが勤務時間が週1回に

限定されていた事もあり予備調査員が調査を行う必要があった。

認定調査特記事項に関する市からの問い合わせ内容を共有、伝達等を目的とした認定調査の会議を定期的に行い（今年度は5回）調査員の資質向上に向けての取り組みを継続した。

④災害や感染症発生時における、事業継続の体制づくり

報酬改定によりBCP計画の作成・研修の実施、訓練の取り組みが義務づけられた。担当者を中心に今年度は新型コロナ感染症に向けた計画を作成した。職員が発症した場合、事業継続に支障がでない様、管理者業務等、特定の職員のみが行っている業務の洗い出しと対策、利用者情報の共有を行った。利用者や家族に対しては、発熱などコロナ感染が疑われる場合のシミュレーションとして「体調がわるくなっちゃった、どうしよう」の用紙を作成し体調不良時の連絡先の確認、感染症が疑われる利用者宅訪問が必要となった場合の感染対策備品準備などを行った。また、令和2年度まで活用していた避難場所シートは廃止しほのぼの『利用者管理』に避難場所を記載することで共有しやすくした。次年度は新型コロナ感染症研修や訓練及び自然災害時のBCP作成を行う予定である。

4. 年間計画実施状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
見学実習受け入れ		実施		実施								
避難リスト更新				廃止⇒別様式変更								
地蔵盆					中止							
他法人との事例検討				延期			実施				中止	
事業所内勉強会	実施	実施	実施	実施		実施		実施	実施	実施	実施	中止
地域ケア会議								参加				

5. 苦情・相談結果報告

報告件数	令和3年度			令和2年度			
	苦情	相談	合計	報告件数	苦情	相談	合計
	2件	12件	14件	報告件数	1件	7件	8件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
相談	0	3	3	0	1	0	3	1	0	0	0	0
苦情	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0

(複数回答あり)

	話を聞いてほしい	調査依頼	教えてほしい	改善依頼	回答依頼	金銭面	謝罪要求
相談	8	0	1	2	2	0	0
苦情	0	0	1		0	1	0

《苦情まとめ》

昨年に比べ報告件数は6件増加し14件の報告であった。報告忘れ、認識・知識不足、利用者への接遇、事業所との連携不足等からケアマネジャーに関する苦情・相談が主な内容だった。特に新人ケアマネジャーの利用者に対する対応の苦情が3件立て続いて発生。個別面接を重ねて原因や対応策を話し合ったが本人希望にて退職となった。

苦情は2件。1件は事業所との連携不足によりサービス事業所から居宅ケアマネジャーに対する不満に対して管理者が同席して話を伺い対応した。もう1件は、紙おむつ支給申請の説明がなかった事で損失が生じたと言金要求があった。このケースについては坂本施設長同行訪問し苦情内容の確認、堅正弁護士から助言を受け賠償金を支払う事で謝罪を行った。今回の事案発生後、直ちに事業所内での情報共有とおむつ支給対象者の洗い出しを実施。また重要事項説明別紙に神戸市の減免制度の案内を添付し説明漏れが無いよう、また説明を受けた記録が残る方法を実施、再発防止策とした。

6. 新型コロナウイルス感染症に関する報告

○発生件数

陽性者（職員）	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等（見込み含む）
職員の感染者なし	感染対策備品（消毒、マスク等） ￥40,610 訪問認定調査拒否にて電話聞き取り44件 訪問調査との報酬差額 @ ￥3,520 × 44 = ￥154,880 レンタルスマホ（3月から） @ ￥6,600（初月料金）	ゾーニングの為の交付金 ￥10,000

《新型コロナウイルス感染症に関するまとめ》

職員においては、基本的な感染防止対策を継続して職員自身感染防止対策の意識を持ち、事業所内からは感染者を出さず業務継続できた。
 緊急事態宣言中、サービス利用を控えたケースもあったが数件のみで支援費請求に関して大きな影響はなかった。減収としてはコロナ感染対策の備品購入費があった。認定調査が訪問から電話聞き取りになった事での差額減収はあるものの、昨年度の一律調査中止し1年延長となった影響で今年度は調査対象者が例年に比べ急増。結果的には訪問調査実施件数は昨年より122件増となったことから増益とも評価できる状況だった。

《総括》

今年度は4月に認定調査兼任で新人介護支援専門員を採用し5名体制で業務開始した。職員増員により月平均145件請求を目標としたが3カ月勤務後本人より申し出があり退職。1月に法人内異動にて再度5名体制を確保したが請求件数は5%増と微増にとどまった。一方で業務効率化への取り組み継続し、議事録、提供票のペーパーレス化、事務作業軽減の成果を得られたと評価する。事業所内勉強会も計画通り実施し各自学びの場を持つ事ができた。
 報酬改定によりBCPが義務化、委員会を設立し西神南あんしんすこやかセンターとも協議を重ねて計画書を完成させる事ができた。職員においては、基本的な感染防止対策を継続して職員自身感染防止対策の意識を持ち、事業所内からは感染者を出さず業務継続できた。
 認定調査委託業務は、昨年度の特例的な措置の影響で今年度同期間の調査件数がかなり増加した。その為、神戸市外からの依頼について委託できなかったケースがあったが、神戸市からの委託業務は現員にて順調に遂行できた。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ①地域・保護者と共に歩む。
- ②教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④広報活動・求人活動を積極的に行う。
- ⑤法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、独自性を出す。
- ⑥地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和3年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→オンライン研修や園内研修を通じて勉強し、検討を重ねた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
→手作り玩具や保育環境チームで検討し環境を整えた。
- ③本園と分園の連携を密に図り、豊かな教育保育が行えるようにする。
→コロナやノロウイルスなどの感染症の関係で行き来が十分にできなかった。
- ④特色・サービスの視覚化を進める。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、保護者と職員との交流を深める。
 - ・地域の施設・学校・関係者に園だより等を配布する。
 - ・湊川神社への避難訓練時、腕章をつけて、地域の方には知っていただく。
 - ・園庭開放、子育てひろばにて、園を知っていただく。
 - ・園庭開放ポスターを病院等に掲示していただく。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修を受講する。
 - ・職員会議毎に研修、伝達講習、ブレインストーミング等を行う。
 - ・教育保育部門合同研修を行う。→コロナ感染症の為オンライン研修を行った。(11月1日)
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTを活用し、効率化を図る。)
→書類の効率化に努めた。
- ⑦特別な配慮、支援の必要な子どもへの理解を深め、多角的にアプローチする。
→すこやか対象児童以外でも配慮の必要な子どもの話し合いを定期的に行いかかわりを深めた。虐待の恐れのあるケースについては親子ともに心身の状態を観察するようにした。
- ⑧子育てサロン、外国にルーツを持つ子どものための学習教室を通して、地域への支援を深める。
→子育てサロンは中止。学習支援は3人程度利用している。

⑨リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。

→世の中の事件や事故にもすぐに対応できるようにオンライン会議を活用した。

⑩1号認定に移行する法人内小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。

→コロナ感染症により新年度1週間前からの受け入れになったが小規模の職員にも本園に来てもらい引継ぎをしっかりと行った。

⑪新型コロナウイルス感染症対策を行う。

- ・手洗い手指消毒、マスクの着用
- ・家庭内や園での健康観察の周知徹底
- ・十分な換気、空気清浄機の活用

*その他、日常の保育や行事の開催方法、地域貢献事業の開催についても、状況をみながら対応していく。

4. <地域貢献事業計画>

- ・8月 地蔵盆 →子どもだけで行った
- ・12月 おもちつき →中止
- ・毎月 基本第4土曜日 子育てサロン開催 →中止
- ・毎週火曜日 外国にルーツを持つ子どものための学習教室

5. <修繕・購入計画>

電気設備修繕（LEDへ）令和4年3月に終了

6. <行事報告>

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止 説明会のみ行った）
5月	お楽しみ会（こいのぼり集会） 春の遠足（5歳児）（中止） 運動会（秋に3～5歳児で行った）
6月	歯科教育指導（中止） 同園会
7月	全園児プール開き（水遊びに変更） 七夕祭り ワークキャンプ受け入れ（中止）
8月	地蔵盆（子どものみで行った）
9月	デイサービスお祝い会（中止） お泊り保育（5歳児）（特別な保育実施）
10月	秋の遠足（全園児）（近隣のお散歩に変更） 保育参加日（中止）
11月	作品展 お楽しみ会 津波避難訓練
12月	クリスマス会 おもちつき（中止）
1月	よいこの集い（中止） 六甲山そり遊び遠足（5歳児）（11月園外保育に変更） お楽しみ会 津波避難訓練
2月	生活発表会（DVD配布に変更） ピドスコープ撮影
3月	お別れ遠足（全園児）（5歳児のみに変更） お別れ会 卒園式 津波避難訓練

月間行事（月1回）

お誕生日会（保護者参加なし） 防災訓練 防犯訓練（大人の動きやシュミレーション）
ECC英語遊び（新型コロナウイルス感染状況により中止の場合があった）

その他

- ・音楽指導・ダンス4・5歳児 月数回 (ダンスは中止)
- ・盲学校幼稚園部児童との交流 月数回 (中止の月もあった)
- ・事故対応訓練 (SIDS・プール事故・アレルギー対応)
- ・消火器 火災報知機の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回 (中止)
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回 (中止)

7. <<保健衛生報告>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋 年2回 職員 春 年1回
園児歯科健診	6月・11月 (4・5歳児)
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児眼科健診	6月・2月 (4・5歳児)
園児発育測定	月1回
園児検尿	年1回
調理員・保育者全員検便	月1回以上
調理室の消毒	月1回
グリストラップの清掃	年4回
エアコン・換気扇の清掃	年1回
砂場消毒	年1回

8. <<令和3年度在籍児一覧表>> () は分園
2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9 (9)	25 (9)	25 (8)	25 (9)	22 (8)	25 (9)	131 (52)	115%
5月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
6月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
7月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (8)	22 (9)	25 (9)	131 (53)	116%
8月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (8)	22 (9)	25 (9)	131 (52)	116%
9月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
10月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
11月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	24 (9)	22 (9)	25 (9)	130 (54)	115%
12月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
1月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
2月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
3月	9 (9)	25 (9)	25 (9)	25 (9)	22 (9)	25 (9)	131 (54)	116%
合計	108 (108)	300 (108)	300 (107)	299 (106)	264 (107)	300 (108)	1571 (644)	116%

1号認定こども

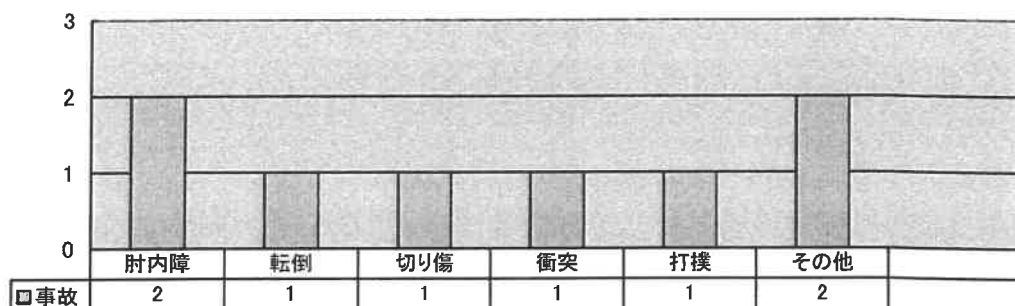
	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	5	6	5	16	107%
5月	5	6	5	16	107%
6月	5	6	5	16	107%
7月	5	6	5	16	107%
8月	5	6	5	16	107%
9月	5	6	5	16	107%
10月	5	6	5	16	107%
11月	5	6	5	16	107%
12月	5	6	5	16	107%
1月	5	6	5	16	107%
2月	5	6	5	16	107%
3月	5	6	5	16	107%
合計	60	72	74	216	107%

9. 《リスクマネジメント報告》 本園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 8件

令和2年度 事故 10件



○事故発生内容

泣き入りひきつけを持っている子どもがひきつけを起こし1分以上意識が戻らず救急車を呼ぶことが2回あった。

階段での転倒であごが切れ、ホッチキスを4か所止めた。

雲梯での打撲が数件。友達との関わり、手をついたときなどでの肘内障。

運動の際の転倒で、ひじを痛めたなどがありました。

10. 《リスクマネジメント報告》 とも分園

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 1件

令和2年度 事故 1件

切り傷 1件

○事故発生内容

大型積み木の上からジャンプしたところそばにあったままとキッチンであごを強打した顎から出血、2センチ程度切れた。3か所ホッチキスで止めた。

○まとめ

救急車要請2回あった。いつ起こるかわからないので医師の指示のもと連携を図っていきたい（園児は令和3年度で退園）

顎のケガはとも分園も同様に裂傷が大きいので環境を整え、室内での過ごし方などを子どもにも伝えていきたい。

11. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・7件（本園6件 分園1件）

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	7件	7件	0件		4件	4件	0件

○報告・伝達できていないこと。プレゼントのお誕生日BOOKの内容や写真などの指摘。

感染症で行事などの規模縮小に対する苦情。友達とのトラブルに対する対応についての苦情があった。

こちらのミスに対しては丁寧にお詫びをし、保護者の思いに寄り添いながら話を十分に聞くようにした。

すこやか認定を受けている子どもの職員配置についても相談があった。子どもへのかかわりの時間が確保できるように配置や時間の使い方などを工夫し、早急に改善した。

12. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和3年度				
	陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
本園	3件	15件	1,305,320円	1,305,320円
分園	4件	9件		

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令における神戸市からの通達をもとにその都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的に行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 本園303人 分園62人

13. 《総括》

令和3年度も、日頃の保育、行事等様々なところで新型コロナウイルス感染症対策を行った。しかしながら、園内での陽性者の発生に伴う登園自粛のケースが多くあった。保育においては、本園、分園ともに主体的に遊ぶことのできる環境作りを工夫しながら行うことができたと感じている。また、職員間においては保護者への伝達事項だけではなく、子どもの頑張っている様子、微笑ましい様子を伝え合う等、コミュニケーションも円滑にとることができた。行事においては、中止および保護者参加の際も人数を制限するなどの対応をした。保護者から園内での子どもの様子を見たいという声もあがった。感染対策をしながらも、ドキュメンテーションを含め、様々な手段を用いて園での様子を保護者に伝えられるよう努めていきたい。次年度についても、感染対策を図りながら、今いる子どもたちの将来の幸せを願って、日々保育に励んでまいります。

令和3年度 事業報告書

大慈ひょうご幼保連携型認定こども園

1. 《基本方針》

- ①安全を第一に考え、子どもが安心して元気に活動できるよう工夫し努力した。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努めた。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図った。

2. 《中長期目標》

- ①理念に基づいた教育・保育を職員で共通理解し、実施する。
- ②子ども、保護者に寄り添い、地域とともに歩む。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④法人内幼保連携型認定こども園の連携を図り、独自性を出す。
- ⑤地域交流を深め、地域子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和3年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→・子どもの発達段階をよく理解し、丁寧な関わりに努め、子どもの想いを共有した。
・子どもが自ら活動できるよう環境を検討し、工夫した。
- ②異年齢の関わりを深める。
→活動内容により関わりを持てるようにした。
- ③子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整える。
→感染対策に伴う保育の中で、工夫しながら環境を整えた。
- ④子どもや保護者、地域とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
→・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を早く覚えていただき、親近感を持っていただけるようにした。
・小学校や地域の関係者に園だよりを配布して、園の活動内容を知って頂ける様に努めた。
・要支援家庭に対して、区の保健師、こども家庭センターと情報を共有し、子どもの様子や家庭の状況など話し合い、変化を見逃さないようにした。
・すこやか対象児だけでなく、個別に配慮が必要な子どもの対応もおこなった。
・新型コロナウイルス感染の影響で、一時保育や園庭開放等、在園児以外の子育て世帯の方に園に来ていただくことができなかった。
- ⑤資質向上のため、職場内、職場外研修を行い全職員で共通理解をする。
→・キャリアパス要件を満たすよう、可能な研修に参加した。
・部門内でオンライン研修を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦行事に地域の方をご招待したり、一緒に遊ぶ機会を計画するなど、地域交流を深め、地域に根付いた園であり続ける。
→・感染症対策のため、行事などへの招待ができず、交流を持つことができなかった。
・市民花壇の草花に、年長児と共に水やりをして草花への興味関心を育てた。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。

- ⑨1号に移行する法人内小規模保育園の園児（2歳児）を早めに受け入れ、慣れるようにする。
→卒園式終了後以降、あい小規模保育園からの受け入れを行い慣れるようにした。
- ⑩新型コロナウイルス対策を、状況により取り組んでいく。
- ・3歳児以上から室内ではマスクを着用し、手洗い、手指消毒や換気の徹底を行った。
 - ・神戸市からの情報を職員や保護者へ発信を行い、コロナ対策の周知徹底を図った。
 - ・職員や園児、またその同居家族が発熱、その他症状が発症した時は聞き取りを行い消毒や必要に応じて自粛要請をし、感染拡大の防止に努めた。

4. 《行事報告》

※年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止、説明会）
5月	春の遠足（いちご狩り中止）
6月	食育フェア・お楽しみ会・歯科教育指導（全て中止）
7月	プール開き（水あそび）・プラネタリウム・夏まつり（全て中止） 七夕まつり
8月	小学校プール・お年寄りとの交流会・ワークキャンプ受け入れ（全て中止）
9月	お泊り保育（夜までの特別保育、泊りはなし）
10月	運動会（3～5歳児のみ） 秋の遠足（近隣お散歩） いもほり遠足・お楽しみ会（中止）
11月	焼きいも大会 作品展 津波避難訓練 参観ウィーク（中止）
12月	ドレミコンサート（中止） クリスマス会
1月	もちつき・よいこの集い（全て中止） 津波避難訓練
2月	生活発表会（DVD配布）
3月	お別れ遠足（近隣お散歩） お別れ会 卒園式 津波訓練

※月間行事（月1回）

お誕生日会 発育測定 防災訓練 防犯訓練

その他

- ・全園児避難訓練（火災）…月1回
（地震・津波・SIDS・水難事故・痙攣など）… いずれか月1回
- ・消防士の指導による避難訓練と消火訓練 … 年1回（中止）
- ・防犯訓練（警察の方による、不審者侵入による防犯訓練）… 年1回
（保育者が不審者になり、園全体で防犯訓練）… 年4回

※卒園式は、各家庭保護者1名だけの参加で行った

5. 《修繕・購入報告》

2歳児、3歳児のトイレの床の張り替え（令和3年度5月に終了）

6. <<保健衛生報告>>

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児6月・11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月・11月 年2回(中止) → 園児10月
園児耳鼻科健診	6月 年1回 → 7月
園児眼科健診	6月 年1回 → 11月
園児身体測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・全職員検便	登録衛生検査所有研により月1回以上
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップ清掃	アーテックサーキュレーションにより年5回
エアコン・換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

7. <<令和3年度在籍児一覧表>>

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	7	18	18	20	19	20	102	113%
5月	7	18	18	20	19	20	102	113%
6月	7	18	18	20	19	20	102	113%
7月	7	18	18	20	19	20	102	113%
8月	7	18	18	20	19	20	102	113%
9月	7	17	18	20	19	20	101	112%
10月	8	18	18	19	19	20	102	113%
11月	8	18	18	20	19	20	103	114%
12月	8	18	18	20	19	20	103	114%
1月	9	18	18	20	19	20	104	116%
2月	9	18	18	20	19	20	104	116%
3月	9	18	18	20	19	20	104	116%
合計	93	215	216	239	228	240	1231	114%

1号認定こども

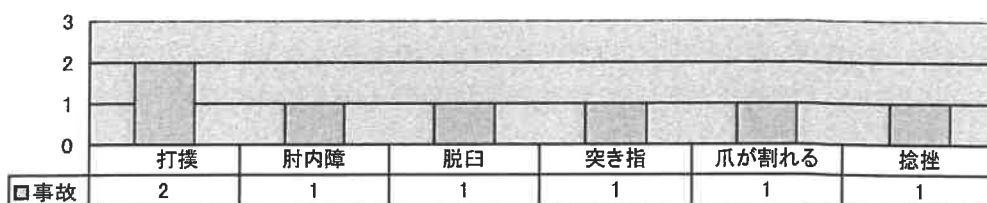
	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	3	3	3	9	100%
5月	3	3	3	9	100%
6月	3	3	3	9	100%
7月	3	3	3	9	100%
8月	3	3	3	9	100%
9月	3	3	3	9	100%
10月	3	3	3	9	100%
11月	2	3	3	8	89%
12月	3	3	3	9	100%
1月	3	3	3	9	100%
2月	3	3	3	9	100%
3月	3	3	3	9	100%
合計	35	36	36	107	99%

8. 《リスクマネジメント》

医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 7件

令和2年度 事故 2件



○まとめ

遊んでいる時にバランスを崩し、足や腕をねじる事故があった。毎日サーキットや体幹トレーニングを行い体幹やバランス感覚を鍛えていく。

夏に水筒を2階から1階に降ろす時に、水筒を足に落として爪を割ることがあった。保護者には水筒のひもがないものを用意してもらったため、ひもがついている水筒を持ってきてもらい、肩からかけて安全に運べるようにした。

9. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・2件

報告件数	令和3年度			報告件数	令和2年度		
	合計件数	苦情	相談		合計件数	苦情	相談
	2件	1件	1件		3件	1件	2件

○まとめ

子どもの便の状態を見れていなかったという保育者同士の話を保護者が聞き、不安にさせてしまうことがあった。保護者には、不安にさせてしまったことを担当した保育者と共にお詫びをして、以後十分気を付けていくことを伝えた。

保育者同士の伝言の仕方や、保護者がいる時の対応等、保育者一人一人が責任を持った行動をとることを周知した。

10. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
7件	12件	1,232,500円	1,232,500円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『よい子ネット』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的に行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 114人

11. 《総括》

昨年度から引き続き、新型コロナウイルス感染対策を行いながらの保育となり、計画をしていた行事も予定通りに行うことができなかった。制限がある中で何が出来るかを職員間で話し合い、止むを得ず中止とすることもあったが、少人数で行うなどして行事に取り組んだ。その中で子どもたちは自分でしたいことを見つけて友だちや保育者と共に遊びを広げていった。

令和3年度も引き続き社会の状況を踏まえながら、部門内で話し合い、職員全員で力を合わせ共通理解の下、ひとつひとつ乗り越えていきたいと思う。

1. 《基本方針》

- ①子どもを第一に考え、保護者に寄り添い共に育てる。
- ②職員一人一人が自己研鑽し、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期計画》

- ①教育・保育要領を理解し、教育保育を深める。
- ②地域交流を深め、地域と共に育てる。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④広報活動・求人活動を積極的に行う。
- ⑤法人内の幼保連携型認定こども園・小規模保育園との連携を図り、独自性を出す。
- ⑥地域の子育て家庭への支援を行う。

3. 《令和3年度報告》

- ①子どもの発達段階をよく理解し、主体性を育むよう努める。
→オンライン研修を活用し、主体的に遊べるように環境を整えた。
- ②子どもの好奇心から始まる自発的な遊びや活動が展開できるように環境を整えた。
→新型コロナウイルス感染拡大防止対策を講じながら、子どもの主体性を育むよう、子どものつぶやきや発見を大切に保育環境を整えた。
- ③大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携を図り、豊かな保育が行えるようにする。
→・職員間で情報を共有し、土曜日の合同保育を行った。
・2歳児卒園後、園が変わっても出来る限り子どもの負担にならないように、職員間で情報共有を図った。
- ④特色や事業内容の視覚化を進める。
→・職員紹介ニュースを発行し、保護者に職員を知っていただいた。
・ホームページやインスタグラムの更新をし、保育の発信を図った。
・地域に園だよりを配布して、園のことを知っていただくよう努めた。
・園開放、子育てひろばは、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
→・キャリアパス要件を満たすようオンライン研修を受講した。
・保育の専門性を高めるためオンライン研修を受講した。
・部門全体でオンライン研修を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→・職員間で周知・改善をし、再発防止に努めた。
・部門全体のリスクマネジメントも行い、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧園開放にたくさん参加していただけるよう受け入れ体制を整えておく。
→新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、受け入れを中止した。

⑨地域の子育てニーズに応えるべく一時保育を積極的に受け入れる。

→新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、受け入れを中止した。

⑩子育てサロンを通して、地域の子育て支援を深める。

→新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、中止した。

⑪新型コロナウイルス感染症対策を行う。

→・職員・3歳児以上のマスク着用、手洗い手指消毒の徹底、健康観察の周知徹底を行った。

・こまめな換気、加湿器、空気清浄機の活用を行った。

・職員や保護者へ取り組み指導を行った。

・神戸市からの情報をその都度メールやお手紙にて発信をした。

・発熱や体調不良の場合は細かく症状を聞き取り、園児や同居の方の体調把握に努めた。

4. 《地域貢献事業報告》

・ 6月 お楽しみ会(中止)

・ 8月 プール遊び・夏祭り・大慈こども園の地蔵盆(全て中止)

・ 11月 お楽しみ会(中止)

・ 1月 おもちつき(中止)

・ 毎月 基本第2土曜日 子育てサロン開催

5. 《大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園との連携》

・ 土曜日は大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園の園児も大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う

→新型コロナウイルス感染症やその他の感染症の状況を見ながら合同保育を行った。

・ 1号に移行する大慈あい小規模保育園・大慈さち小規模保育園の園児(2歳児)を早めに受入れ慣れるようにする。

→新型コロナウイルス感染症の影響を受け、例年より1週間遅れての受入れとなった。

6. <<行事報告>>

年間行事

月	行事名
4月	入園式(式は中止、説明会のみ)
5月	5歳児春の遠足(中止) お楽しみ会(中止)
6月	お楽しみ会(中止) 歯科指導(中止)
7月	プール遊び(水遊びに変更) 七夕まつり ワークキャンプ受け入れ(中止)
8月	夏まつり(中止 同園会は10月に変更) ワークキャンプ受け入れ(中止)
9月	5歳児お泊り保育(10月 夜までの特別な保育に変更)
10月	運動会(10月3・4・5歳児のみ 0・1・2歳児はDVD配布 全園児秋の遠足(近隣にお散歩)
11月	参観ウィーク(中止) 作品展 お楽しみ会(中止) 津波避難訓練(大倉山中央体育館)
12月	音楽会(4・5歳児のみに変更) クリスマス会(クラス毎に行った)
1月	おもちゃつき(中止) 5歳児そり遊び遠足(11月園外保育に変更) よいこの集い(中止) 地震避難訓練(大倉山中央体育館)
2月	発表会(全クラス DVD配布)
3月	全園児お別れ遠足(0歳児~4歳児 近隣にお散歩 5歳児バスを利用し、近隣へ遠足) お別れ会 卒園式

月間行事(月1回)

- ・お誕生日会(園児のみ)・防災訓練・防犯訓練・ECC英語遊び(新型コロナウイルス感染症の状況により中止)・園児発育測定

その他

- ・事故対応訓練(SIDS・プール事故・アレルギー対応)
- ・消火器 火災報知器の点検 年2回
- ・消防署による消防訓練 年1回(中止)
- ・警察署による交通安全教室・防犯訓練 年1回(中止)
- ・事故対応訓練(SIDS・プール事故・アレルギー・痙攣)

7. <<保健衛生報告>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児4月11月 年2回 職員年1回
園児歯科健診	6月・10月 年2回
園児耳鼻科健診	4月 年1回
園児眼科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
調理員・保育教諭全員検便	登録衛生検査所有研により月1回 6月~10月 月2回
調理室の消毒	サニックスにより月1回
グリストラップの清掃	アーテックサーキュレーションにより年4回
エアコン・換気扇の清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

8. 《令和3年度在籍児一覧表》

2・3号認定こども

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	9	12	13	13	14	11	72	120%
5月	9	12	13	13	13	11	71	118%
6月	9	12	13	13	13	11	71	118%
7月	9	12	13	13	13	11	71	118%
8月	9	12	13	13	13	11	71	118%
9月	9	12	13	13	13	11	71	118%
10月	9	12	13	13	12	11	70	117%
11月	9	12	13	13	13	11	71	118%
12月	9	12	13	13	13	11	71	118%
1月	9	12	13	13	13	11	71	118%
2月	9	12	13	13	13	11	71	118%
3月	9	12	13	13	13	11	71	118%
合計	108	144	156	156	156	132	852	118%

1号認定こども

	3歳児	4歳児	5歳児	合計	充足率
4月	6	6	6	18	120%
5月	6	6	6	18	120%
6月	6	6	6	18	120%
7月	6	6	6	18	120%
8月	6	6	6	18	120%
9月	6	6	6	18	120%
10月	6	6	6	18	120%
11月	6	6	6	18	120%
12月	6	6	6	18	120%
1月	6	6	6	18	120%
2月	6	6	6	18	120%
3月	6	6	6	18	120%
合計	72	72	72	216	120%

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度	事故	11件
令和2年度	事故	11件

○事故発生内容



○まとめ

転倒の際、手をつくことが出来ずに顔を打つ怪我が多かった。とっさに手をつくことができるように、朝のサーキットに腕を使う活動を取り入れた。また、転倒した際にフェンスで頬を打ち、4針縫う事故も起きた。フェンスにクッションを貼り、安全面を強化し再発防止を図った。

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→園長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・4件

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	4件	3件	1件		14件	11件	3件

○まとめ

保育者の子どもとの関り方や確認不足、説明不足が原因で保護者の方にご心配をおかけすることとなった。

今年度は職員の入替わりが多く、丁寧に子どもや保護者の方と関わることが出来ていなかったことや、職員間での共通理解に欠けていた。

職員の資質向上に努めるとともに、保護者の方との日頃の会話を大切に、信頼関係を築いていけるようにしていく。

1 1. <新型コロナウイルス感染症>

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要し た費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
1件	12件	1,232,500円	1,232,500円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『よい子ネット』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的に行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数 61人

1 2. <総括>

新型コロナウイルス感染症と共存して2年目の保育となった。
計画を進めていたことも、急遽変更や縮小、中止となることが多い1年だった。
状況が変化する度に法人内で話し合い、コロナ禍でもできることを相談しながら進めていった。
子どもは限られた環境の中、楽しく遊び、想像力を働かせ工夫しながら活動していた。
引き続き、限られた環境の中でも、子どもたちが主体的に活動ができたり、豊かな経験ができるように職員間で知恵を絞り、環境を整えていきたい。

1. 《基本方針》

- ①子ども・保護者一人一人をよく把握し、寄り添った保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ①保育理念に基づいた保育を職員で共通理解し、実施する。
- ②子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④法人内幼保連携型認定こども園の連携を図り独自性を出す。

3. 《令和3年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
→子どもの発達段階にあった室内環境を整え、自ら関わり遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
→園での様子をこまめに伝え、成長した姿を共有する中で家庭での様子を聞き連携を図った。
- ③大慈ほまれ幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
→新型コロナウイルス感染拡大防止により交流をすることができなかった。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにした。
 - ・地域に園だより等を配布するとともに、積極的に挨拶をし、関わった。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う。
 - ・キャリアパス要件を満たすよう研修をオンラインで受講した。
 - ・教育・保育部門合同研修をオンラインで行った。
- ⑥日頃より、法人内園・児童館に行き、交流を深める。
→新型コロナウイルス感染拡大防止により法人内園・児童館に行く事はできなかった。
- ⑦人材確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
→保育書類をiPadで作成し、効率化に向けて取り組んだ。
- ⑧リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→園だけではなく、部門全体の情報を共有し、想定内を増やすように努めた。
- ⑨新型コロナウイルス対策を流行状況により対応する。
 - ・常に窓を開けて換気を行った。
 - ・職員・子ども・保護者の体調管理、また取り組みの指導をした。
 - ・手洗い、手指、玩具の消毒の徹底していった。
 - ・発熱時やその他症状が出た時の情報を大慈ほまれ幼保連携型認定こども園、大慈さち小規模保育園とのミーティングで伝えあった。
 - ・新型コロナウイルス感染者の状況をよい子ネットにて保護者に発信した。
 - ・神戸市からの情報を保護者に発信した。

4. 《法人内幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→陽性者が判明した時やまん延防止等重点処置が発令している時は、大慈あい小規模保育園で保育をした。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は法人内幼保連携型認定こども園に、早めに受け入れ慣れるようにする。
→新型コロナウイルス感染拡大防止により、移行する2歳児の園児は法人内幼保連携型認定こども園に行く事を延期した。不安にならないよう移行する園に保育者が付き添った。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止。説明会だけ行った）
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	遠足ごっこ 運動会（DVDを配布）
11月	個人懇談（希望者のみ）
12月	クリスマス会
1月	おもちつき（中止）
2月	豆まき
3月	お別れ会（子どもたちと職員とで一緒に遊んだ） お別れ会（茶話会は中止になったが2歳児の保護者を迎え終了証書を渡した） お別れ遠足（近隣の公園）

月間行事

- ・お誕生日会（月1回）
- ・ECC英語遊び
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回行う。

6. 《保健衛生報告》

項 目	頻 度 等
園児・職員定期内科健康診断	園児 4月・11月 年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月・年1回
園児身体測定	月1回

園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	(株) 有研により月1回以上
エアコン清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

*新型コロナウイルス感染拡大状況により実施・内容・時期を検討し対応した。

7. 《令和3年度在籍児一覧表》

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	0	5	6	11	91%
5月	0	5	6	11	91%
6月	1	5	6	12	100%
7月	1	5	6	12	100%
8月	2	5	6	13	108%
9月	2	5	6	13	108%
10月	2	5	6	13	108%
11月	2	5	6	13	108%
12月	2	5	6	13	108%
1月	2	5	6	13	108%
2月	2	5	6	13	108%
3月	2	5	6	13	108%
合計	18	60	72	150	104%

8. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 1件

令和2年度 事故 0件

○事故発生内容

11か月の子ども。机につかまり立ちをし、椅子に片足をかけようとしたときにバランスを崩し机で顎を打ち、上唇小帯を切った。

○まとめ

大きな怪我には至らなかったが、一歩間違えれば大きな事故に繋がる案件だった。つかまり立ちをしたときは転倒することも予測されるので側に付くように、職員間で話をした。

9. ≪苦情・相談結果報告≫

苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数…1件

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	1件	0件		0件	0件	0件

○まとめ

警報発令時に、育休中の保護者に「お仕事がお休みの方は家庭での協力をよろしくお願ひします」ということを伝えて休んでいただいた。その後、保護者から電話があり「育休中は家で休んでいるわけではない」と話があった。強制ではないことを伝えて保育者の説明不足を謝罪した。保護者に寄り添いながら関わることが出来るように、職員の資質向上に努めていく。

10. ≪新型コロナウイルス感染症報告≫

○発生件数

陽性者…2人

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
0件	2件	310,000円	310,000円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『よい子ネット』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的にを行い連携を図った。
- ・登園自粛対象者の延べ人数27人

11. 《総括》

今年度、大慈さち小規模保育園が開園し、法人内園の3歳児受け入れ定員により、大慈あい小規模保育園の定員が19名から12名に変更になった。

これまで以上に一人一人と関わることができ、保護者ともより多くコミュニケーションが取れた。

今年度も緊急事態宣言、まん延防止等重点処置期間があり、保護者参加の行事がお誕生日会のみになってしまった。運動会は、DVDをお渡しし、園での様子を見ていただけて良かった。コロナウイルス感染防止対策で、法人内の園の行き来ができなかった。行けなかったことで2歳児の子どもが移行先園での不安があるのではないかと思い、子どもの様子を移行先園に伝えると共に、移行日から大慈あい小規模保育の保育者が付き添い、安心できるようにした。これからも、少人数だからこそできるきめ細やかな保育、家庭的な保育を実践していきたいと思う。

また、コロナ禍で制限されることがまだまだ続くのではないかとと思われるので、感染対策を徹底しながら、保育の向上に努め一人一人が安心して過ごせる環境づくりに取り組んでいきたい。

1. 《基本方針》

- ①子ども・保護者一人一人をよく把握し、寄り添った保育を行う。
- ②職員一人一人が自己研鑽を行い、資質向上に努める。
- ③職員の定着に向けて、業務の効率化を図る。

2. 《中長期目標》

- ①子ども、保護者に寄り添い、共に子育てをする。
- ②地域に愛される大慈さち小規模保育園になるよう努める。
- ③キャリアパスを基に研修の充実を図る。
- ④法人内幼保連携型認定こども園の連携を図り独自性を出す。

3. 《令和3年度報告》

- ①保育理念をよく理解し、子どもの主体性を育むよう保育をする。
→子どもの発達に合った室内環境を整え、コーナーを選び、主体的に遊べるようにした。
- ②保護者理解が深められるよう、日頃からの関わりを大切にする。
→園での様子や成長した点をこまめに伝えることで、成長を共有し、保護者との信頼関係を築いた。
- ③法人内幼保連携型認定こども園との連携を図り、豊かな体験を増やす。
→連携園にこまめに遊びに行くことで、各園で砂遊びや広い園庭で十分に身体を動かすなど様々な体験を行った。
- ④保護者や地域の方々とのより良い信頼関係が保てるよう積極的に関わる。
 - ・職員紹介ニュースを発行し、職員と保護者の関係が円滑に築けるようにする。
→職員紹介ニュースを配布し、職員の顔と名前が保護者に認識していただけるようにした。
 - ・地域に園日より等を配布するとともに、積極的に働きかけ、関係を深めていく。
→散歩やおたより配布のたび、子どもたちの成長を喜んでいただいた。
 - ・花壇に綺麗なお花を咲かせ、地域の心温まる場所になるよう手入れをする。
→子どもたちと花壇の花を季節ごとに植えることで植物に関心を持てるようにした。
地域の方にも子どもたちの植えた植物の成長を見守っていただけた。
- ⑤資質向上のため職場内、職場外研修を行う
 - ・教育・保育部門合同研修を行う。
→部門合同で研修を行った。
- ⑥人材確保・定着に努める。(ICTの活発な活用等により効率化を図る)
→保育書類をiPadで作成し、効率化に取り組んだ。
- ⑦リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→園だけでなく、部門全体で情報を共有し、想定内を増やすよう努めた。
- ⑧新型コロナウイルス感染症対策を行う。
 - ・職員や保護者等のマスク着用、手洗い手指消毒の徹底
→感染拡大防止に努めたことで、自粛することなく保育を行うことができた。
 - ・健康観察の周知徹底
→健康観察表の体温を確認し、さらに保護者に体調不良等ないか声をかけることで早期に感染症に気づき、感染拡大を防止できるよう努めた。

- ・こまめな換気、加湿器、空気清浄機の活用
→常に換気を行うことで感染拡大防止に努めた。
- ・職員や保護者への取り組み指導・神戸市からの情報発信
→掲示板や配布物を使い、神戸市からの感染症情報発信を行った。
- ・発熱やその他の症状における対応
→神戸市や連携園と密に情報を共有し、感染拡大防止に努めた。

4. 《法人内幼保連携型認定こども園との連携》

- ・土曜日は大慈ほまれ幼保連携型認定こども園で保育を行う。
→感染拡大防止のため緊急事態宣言、まん延防止等重点措置が発令された際は合同保育を控えた。
- ・1号で移行する園児（2歳児）は法人内幼保連携型認定こども園に、早めに受け入れていただき、慣れていけるようにする。
→新型コロナウイルス感染拡大防止により、移行する2歳児の園児は法人内幼保連携型認定こども園に行く事を延期した。不安にならないよう移行する園に保育者が付き添った。

5. 《行事報告》

年間行事

月	行 事
4月	入園式（式は中止。説明会だけ行った）
6月	個人懇談
7月	七夕まつり
10月	遠足ごっこ 運動会（DVDを配布）
11月	個人懇談（希望者のみ）
12月	クリスマス会
1月	おもちつき（中止）
2月	豆まき
3月	お別れ会（子どもたちと職員とで一緒に遊んだ） お別れ会（茶話会は中止になったが2歳児の保護者を迎え修了証書を渡した） お別れ遠足（近隣の公園）

月間行事

- ・お誕生日会（月1回）
- ・ECC英語遊び
- ・防災訓練

その他

- ・防犯訓練
- ・事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）
- ・消火器、火災報知機の点検 年2回行う。

6. <<保健衛生計画>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	6月・年1回
園児耳鼻科健診	6月 年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	兵庫県予防医学協会により年1回
保育者全員検便	(株)有研により月1回以上
エアコン清掃	アーテックサーキュレーションにより年1回

7. <<令和3年度在籍児一覧表>>

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	4	7	8	19	100%
5月	4	7	8	19	100%
6月	4	7	8	19	100%
7月	4	7	8	19	100%
8月	4	7	8	19	100%
9月	4	7	8	19	100%
10月	4	7	8	19	100%
11月	4	7	8	19	100%
12月	4	7	8	19	100%
1月	4	7	8	19	100%
2月	4	7	8	19	100%
3月	4	7	8	19	100%
合計	4	7	8	19	100%

8. <<リスクマネジメント報告>>

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

年度 事故 3件

○事故発生内容

- ・ 0歳児がバランスを崩し転倒(2回)
- ・ 1歳児が遊具で転倒

○まとめ

歩行が不安定で転倒する事故が多かった。事故防止のため、歩行が不安定な子ども等の情報を職員間で共有することで事故防止に努めた。

9. <苦情・相談結果報告>

苦情の定義→管理者が直接対応した苦情とする。

○報告件数…1件

○苦情内容

家で食材を口にしていたが保育者が栄養士に伝達しておらず、園で食べていなかった。

令和3年度			
	合計件数	苦情	相談
報告件数	1件	1件	0件

○まとめ

栄養士と職員との情報伝達が行えていなかったため、苦情となった。開園当初ということもあり、十分に保護者とコミュニケーションをとり、信頼を深めることで安心できるように努めた。

10. <新型コロナウイルス感染症報告>

○発生件数

陽性者…3人

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (園児)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た 補助金・見舞金等
0件	3件	327,600円	327,600円

○まとめ

- ・神戸市からの通知に伴い、法人内園・館で会議を行い、新型コロナウイルス感染状況の把握や予防の対策について決定又は周知を行った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙やよいこネットの配信にて知らせた。
- ・登園自粛はなかった。
- ・よいこネットの配信を行うことで、家庭でも感染防止に努めていただき、お休みの日は家庭保育に協力していただいた。

11. <総括>

大慈さち小規模保育園は開園当初ということもあり、些細な体調の変化や子どもの成長を伝えることで保護者との信頼関係を築くようにした。

地域の方には温かく受け入れていただき、子どもたちの成長を見守っていただいた。

一方、園前で喫煙や植物の盗難があった。子どもに危害が無いよう、不審な行動があれば速やかに警察に連絡するようにした。

新型コロナウイルスの影響で行事の延期・中止が多かった。運動会はDVDの配布を行ったことで開催はできなかったが、子どもたちの成長や園での様子を見ていただくことができた。

新型コロナウイルスの発生状況に合わせ、感染対策を万全に行いながらも行事を開催できるようにしていきたい。

1. <基本方針>

家庭的な雰囲気の中で、遊びや子ども同士の関わりを通して、将来も幸せになるよう支援を行い、子育てコミュニティの拠点となるよう地域に開かれた児童館を目指す。

2. <中長期計画>

- ①地域と連携して、子どもを健全に育成する拠点となる。
- ②法人内幼保連携型認定こども園と連携を図り、保育の玄関口となる。
- ③親子が気軽に集い、育児に対する負担感を軽減できる場となる。
- ④育児に不安を覚えた際に、安心して相談しに行きたい場所になる。
- ⑤初めてくる方が安心して利用できるように、また、児童館の存在を知らない子育て家庭に、知ってもらえるように広報活動をしていく。
- ⑥地域の小学生以上の児童が進んで遊びに来たくなる場所を目指す。
- ⑦ボランティアの募集を積極的に行い、児童館活動の更なる充実を図る。

3. <令和3年度報告>

- ①地域との連携を密にし、児童館活動を充実させる。
 - ・毎月おたより配布を行った。
 - ・新型コロナウイルスの影響を考慮し、館長のみであったが地域防災訓練に参加した。
 - ・子育てコミュニティの方達と打ち合わせをし、日曜開放や、行事に参加してもらうことができた。
- ②法人内こども園と連携して、活動内容の見直しや、環境の整備を行う。
 - 園で乳児が使っている玩具を紹介してもらったり、手作り玩具を作ってもらったりして、乳児がより楽しめる遊びを取り入れた。
- ③SNSやホームページを使って広報活動を積極的に行い、児童館の活動内容を地域の方々に知っていただく。
 - ・LINEを活用して親子館事業のプログラムの予約案内をした。
 - ・部門のInstagramに児童館の様子を載せた。
 - ・中央区の合同行事にて遊びの動画を撮影し、YouTubeで公開した。
- ④気軽に足を運び、相談ができるように清潔で明るい雰囲気を作っていく。
 - ・職員から来館者に声をかけ、気軽に話ができるよう努めた。
 - ・きれいな児童館とじていただけるように壁の手垢などの掃除をした。
- ⑤ボランティア受け入れを行い、遊びや行事の充実を図る。
 - 新型コロナウイルスの影響で遊びや行事にボランティアが参加できなかった。
- ⑥学習支援教室を行い、子どもの居場所づくりをすることで地域貢献を行う。
 - 毎回10名ほどが参加し、宿題や苦手な部分の復習を行った。レクリエーションの時間や会話をする機会も設けたことで、参加を楽しみにしている子どもが増え、居場所として形になってきた。

4. 《児童健全育成事業報告》

- ・児童館での日常の自由遊びや行事を通して、児童の健全育成を図った。
- ・引き続き木製の大型遊具をリースで設置し、木のぬくもりを感じながらゆったりとごっこ遊びを楽しんだり、体を動かしたりできるようにした。リースの玩具の入れ替えも行った。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、本の見直し、個別で遊べる玩具を増やした。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止の為、少数で実施、又は開催中止せざるを得ないものがあった。

〈年間行事〉

4月	新入生歓迎会 こいのぼり作り
5月	楠北まつり参加 (中止)
6月	つくって遊ぼう (中止)
7月	夏祭り (複数回に分けて「なつまつりごっこ」として開催)
8月	サマープログラム (夏祭りWEEK) (工作・ゲーム等) 交通安全指導 ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流 (中止) 子ども神輿参加 (中止)
9月	高齢者へのプレゼント (中止)
10月	ハロウィン写真撮影
11月	シェイクアウト訓練 音楽遊び (中止)
12月	年末お楽しみ会 (複数回に分けて開催) なかよしひろばクリスマス会
1月	カルタ大会 けん玉グランプリ (中止) けん玉で遊ぼう
2月	豆まき (中止)
3月	つくって遊ぼう

〈月間行事〉

- けん玉検定・おりがみ教室・みんなで遊ぼう (中止)
おはなし会 (休止)

〈利用人数〉

	幼児	低学年	高学年	中高生	大人	合計
4月	117	333	302	8	112	872
5月	74	238	150	0	82	544
6月	181	319	190	0	201	891
7月	146	283	234	1	186	850
8月	47	288	283	7	58	683
9月	73	275	168	0	107	623
10月	236	272	98	1	238	845
11月	216	235	73	1	239	764
12月	207	282	98	9	228	824
1月	175	192	65	6	179	617
2月	185	209	55	0	184	633
3月	199	276	90	4	234	803
合計	1856	3202	1806	37	2048	8949

5. 《在宅育児家庭支援報告》

親子館事業

- 在宅育児家庭における育児に伴う孤立化や育児不安などへ対応するため、地域に住む幼児と保護者を対象に親子が気軽に集える場として事業を行った。
 - ・職員が仲立ちとなり、保護者同士が交流できるよう配慮した。
 - ・季節が感じられるようなプログラム、親子のふれあいを楽しめるプログラムを取り入れた。
 - ・登録児童とその保護者が活動に集中できるように、職員で0、1歳児の兄弟をできるだけ預かるようにした。
 - ・まん延防止等重点措置の期間は一般来館も事前予約制にし、感染症対策を行った。

○ 「すこやかクラブ」 2～4歳児とその保護者の仲間づくり（登録制）

目的：グループで楽しく遊び、保護者同士の交流を図った。

対象：2～4歳児とその保護者

実施日時：毎週木曜日 10:30～11:30

毎週金曜日 10:30～11:30

登録が14組だったが、新型コロナウイルス対策の為、木曜日と金曜日に分けて2クラスで実施した。3学期から利用者の引っ越しなどにより参加組数減少の為1クラスで実施した。

託児機能：0、1歳児の弟妹は児童館職員ができるだけ預かり、登録の親子が活動に集中できるようにした。

登録組数：(子どもの人数)：14組(14名) 内2組が0、1歳児の弟妹同伴

実施内容・参加人数

〈実施内容〉

	月	日	内 容	参加人数(組数)
1 学 期	4	22	説明会	26人(13組)
	5	13.14	開講式	26人(13組)
		20	ふれあい遊び・制作 (21日警報の為休み)	26人(13組)
		27.28	動いて遊ぼう	26人(13組)
	6	3.4	制作(かざぐるま)	20人(10組)
		10.11	新聞紙遊び	22人(11組)
		17.18	制作(からつむりとアジサイ)	20人(10組)
		24.25	制作(提灯)・ふれあい遊び	21人(9組)
	7	1	七夕制作(2クラス合同)	20人(10組)
		8.9	警報の為、中止	中止
15.16		1学期誕生日会・夏まつりごっこ	27人(13組)	
2 学 期	9	2.3	制作(染め紙)	19人(10組)
		9.10	制作(トンボ)・ふれあい遊び	21人(10組)
		16.17	制作(しおり作り)	21人(10組)
		24	風船遊び(23日 祝日)	10人(5組)
		30	風船遊び	10人(5組)
	10	1	サーキット	9人(4組)
		7.8	制作・動いて遊ぼう(ふれあい遊び)	25人(12組)

		14.15	運動会ごっこ	19人(9組)	
		21	歯科衛生指導 (2クラス合同)	17人(8組)	
		28.29	ハロウィンごっこ	18人(9組)	
	11		4	避難訓練(大倉山公園) (2クラス合同)	20人(10組)
			11.12	ふれあい講座『子どもの心を育む言葉かけ』	16人(8組)
			18	子育て応援プラザ ふれあい遊び (2クラス合同)	14人(7組)
			25.26	お母さんプログラム①	16人(8組)
	12		2	交通安全教室 (2クラス合同)	20人(10組)
			9.10	制作(クリスマスブーツ)	21人(10組)
			16.17	お楽しみ会・2学期お誕生日会	20人(10組)
3 学 期	1	13	カルタあそび	25人(12組)	
		20	お母さんプログラム②	23人(11組)	
		27	修了記念制作(写真立て)	34人(15組)	
	2		3	節分ごっこ	21人(10組)
			10	修了記念制作(巾着)	20人(9組)
			17	制作(おひなさま)	22人(10組)
			24	動いて遊ぼう	21人(10組)
	3		3	ふれあい遊び	22人(10組)
			10	3学期お誕生日会・修了式	22人(10組)

○「キッズクラブ」すこやかクラブの保護者による幼児の相互関わりと交流

目的：すこやかクラブのグループで保護者が交代で子どもを世話し、預かり合いをする。

対象：すこやかクラブ員の希望者

→参加者を募ったが、希望者がおらず実施できなかった。

○「なかよしひろば」子育て親子の交流の場

対象：0歳児～就学前児とその保護者

0歳児タイム、1歳児タイムは新型コロナウイルス感染拡大防止の為、2部に分け
申込制にして実施した。1部、2部共に10組ずつで行った。

新型コロナウイルス対策の為、まん延防止等重点措置の期間は5組ずつにした。

実施日：毎週火曜日・水曜日(4月～3月)

・0歳児タイム…0歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週火曜日10:00～10:30、11:00～11:30

・1歳児タイム…1歳児の親子が楽しく遊ぶ

毎週水曜日10:00～10:30、11:00～11:30

・おべんとうひろば…自由に昼食をいただく

毎週月曜日～土曜日11:30～12:30

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、年間を通じて開催を中止した。

・誕生日会…2か月に1度行った(奇数月)

〈なかよしひろば人数報告〉

	0歳児タイム参加人数	1歳児タイム参加人数	合計人数
4月	50人(25組)	54人(27組)	104人(52組)
5月	26人(13組)	48人(24組)	74人(37組)
6月	106人(53組)	105人(52組)	211人(105組)
7月	56人(28組)	62人(31組)	118人(59組)
8月	0人(0組)	0人(0組)	0人(0組)
9月	55人(28組)	64人(36組)	119人(64組)
10月	112人(56組)	128人(62組)	240人(118組)
11月	172人(66組)	97人(48組)	269人(114組)
12月	103人(47組)	141人(64組)	244人(111組)
1月	92人(46組)	77人(38組)	169人(84組)
2月	80人(40組)	69人(32組)	149人(72組)
3月	72人(36組)	92人(44組)	164人(80組)
合計	924人(438組)	937人(458組)	1861人(896組)

6. 《子育てコミュニティ育成事業(児童館日曜開放)報告》

目的：地域の各種団体やボランティアで構成する「開放委員会」が実施する。

児童館は日曜開放に積極的に協力し、委員の方と共に実施する。

新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、ほとんどの日曜開放を中止した。

夏祭り、年末お楽しみ会は、少人数ずつ予約制にして複数回実施し、子育てコミュニティも、分かれて参加をした。

〈日曜開放実施内容・人数報告〉

	内 容	参加人数(人)
5月	プレゼント作り	中止
6月	プラバン作り	中止
7月	七夕飾り	中止
7月	夏祭り(5回に分けて実施)	106
9月	スーパーボールすくい	中止
10月	スライム作り	中止
11月	スライム作り	38
12月	年末お楽しみ会(3回に分けて実施)	126
1月	けん玉グランプリ	中止
2月	ミニ運動会	中止
3月	バター作り	中止

7. 《広報報告》

ホームページを活用し、「じどうかんだより」の更新を行った。

SNSを活用して、情報の更新頻度を上げ、興味を持ってもらうことに努めた。

毎月、「じどうかんだより」を地域の関係者・関係機関に届け、地域との関係強化を図った。中央区の合同行事で作成した動画がYouTubeにて公開されており、幅広いPRにつながった。

8. 《安全指導・危機管理報告》

避難訓練（火災、地震、水害、防犯）月1回～2回
→一般来館の児童も避難訓練に参加した。

9. 《研修報告》

児童館研修に参加し、知識を得た。
持ち帰り、他職員に伝達をしたり、実際行ってみたりと有効に活用できた。

10. 《地域貢献事業報告》

小学1年生～6年生を対象に学習支援教室「まなびやDAIJI」を引き続き実施した。
主に湊川神社にて実施し、使用できないときは総合福祉センターを使用した。

実施日：毎週金曜日15：00～17：00

登録人数：14人（1年生～5年生）

ボランティア：3名

年間に50回開催予定にしていたが、新型コロナウイルスの影響で25回の開催になった。
地域や婦人大学、職員からの紹介により集まったボランティアにより宿題や、授業の分からないところを一緒に考えていくようにした。

居場所づくりとして友だちが増える様に、学習用カードゲームを使用したレクリエーションタイムも設けた。

11. 《総括》

新型コロナウイルスの影響で、昨年度に引き続き行事をいくつも中止したが、少しでも利用者を楽しんでいただけるように、夏祭りや年末お楽しみ会を小規模で複数の日に分けて行った。少人数ずつなので、落ち着いた雰囲気の中で参加した方々も楽しんでいた。

新型コロナウイルス対策で密を避けるため、0歳児タイム、1歳児タイムを今年度も年間を通じて申込制にして実施した。毎週楽しみに繰り返し来てくださる方が多く、母親同士のコミュニティも形成されていた。プログラムの無い日でも、遊びに来てもらえることが増えているので、いつでも気軽に遊びに立ち寄れる児童館であり続けたい。

学習支援教室を開始して1年が経過した。新型コロナウイルスの影響で開催日数が半分になってしまった。それでも利用している児童は、学習後のレクリエーションや、ボランティアスタッフとの会話を楽しみにしているので、子どもの居場所としてより充実させていきたい。遠方から電車に乗って利用に来て下さる方がおり、理由を聞くと「きれいな児童館」、「プログラムが楽しい児童館」と聞いたとのことだった。また、木の玩具や遊具が多く、温かみがあって良いとも言っていた。これからも利用者の期待に応えられるように努めたい。学童保育を利用していた中学生が一般来館で遊びに来たり、行事に参加しに来てくれた。テストの後など時間に余裕があり、疲れている時にやってきてリラックスして帰る姿が見られたので、中学生にとっても、ほっと一息つける場所にしていきたいと思う。

令和3年度 事業報告書

神戸市立たちばな児童館放課後児童クラブ

1. 《基本方針》

- ①豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ②保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③湊学童保育コーナーとの連携を密に図る。

2. 《中長期目標》

- ①児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ②安心して学童保育が利用できるよう、保護者との関係作りに努める。

3. 《令和3年度報告》

- ①高学年児童への対応を学び知識・技能を深める。
→研修参加、ミーティングや会議で話し合いを重ねた。
高学年児童とも積極的に関り、理解に努めた。
- ②豊かな経験ができるよう努める。
→お楽しみ会などの企画、準備、進行などを自分たちで行う等のサポートをした。
- ③夏季休業日間の希望者にお弁当委託サービスを行う。
→昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。
- ④リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→部門で情報を共有し、安全確保に努めた。
職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った
- ⑤児童、職員の交流を深め、湊学童保育コーナーと一体的に保育を行う。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、直接会っての児童の交流を取りやめたが、オンラインを活用してけん玉大会をして交流を図った。
- ⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
→メダカの飼育や花、観葉植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦小学校との定期的な連絡会を実施する。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りは、随時行った。
- ⑧児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
→児童が中心となって発案し準備、進行をしたクリスマス会を行った。

4. 《内容》

- ①健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
・学習支援 ・けん玉遊びの推奨 ・おりがみ教室
- ②学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

5. 《年間行事報告》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加（中止）
6月	七夕飾り作り 交流会（中止）
7月	たちばなカフェ 交通安全指導
8月	夏まつりWEEK（ゲーム・工作） ビデオシアター 高齢者とのふれあい交流（中止） 子ども神輿参加（中止） 青空プロジェクト
9月	運動遊び 高齢者へのプレゼント（中止）
10月	ハロウィン
11月	クリスマス飾り作り
12月	年末お楽しみ会（中止）クリスマス会（学童お楽しみ会） たちばなカフェ
1月	かるた大会 けん玉で遊ぼう 個人懇談
2月	新1年生入会説明会（3月に実施）
3月	新1年生入会説明会 お別れ会 たちばなカフェ

6. 《月間行事報告》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・みんなであそぼう（中止）
おはなし会（休止）

7. 《初日在籍数報告》

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
4月	4	6	10	16	7	1	44
5月	4	6	10	16	7	1	44
6月	4	6	10	16	6	1	43
7月	4	6	10	16	6	1	43
8月	4	6	10	16	6	1	43
9月	4	6	10	15	6	1	42
10月	4	6	9	13	6	1	39
11月	4	6	9	11	6	0	36
12月	4	6	9	10	5	0	34
1月	4	6	9	10	5	0	34
2月	4	6	9	10	5	0	34
3月	4	6	9	10	4	0	33
合計	48	72	114	159	69	7	469

8. 《防災・防犯訓練報告》

火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。
総合福祉センターや地域の防災訓練にも参加した。

9. 《会議報告》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。
 長期休み期間を除く平日にオンラインで湊学童保育コーナーとミーティングを行い、情報共有をした。

10. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 2件
 令和2年度 事故 1件

○ 事故発生内容

目の打撲・・・1件
 口の打撲・・・1件

○ まとめ

遊んでいた友達の手が目に当たった。受診結果…打撲
 手押し相撲をしていて相手の手が口に当たり歯茎から出血。受診結果…打撲

11. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○ 報告件数・・・ 1件

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		2件	0件	2件

○ まとめ

以前に学童保育を利用していた児童が、学童保育退会后、ランドセルを持って直接遊びに来たので、ランドセルを家に置き、保護者に児童館に遊びに行くことを告げてから来るように話して帰らせたところ、「一度帰らされて気分が悪かった」と保護者から電話があった。
 学童保育と一般来館の違いを丁寧に説明した。

12. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○ 発生件数

令和3年度			
陽性者(職員)	陽性者(児童)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
0件	5件	446,000円	446,000円

○ まとめ

・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。

- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『さくらメッセージ』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的に言い連携を図った。
- ・利用自粛対象者の延べ人数 9人

1.3. <総括>

湊学童保育コーナーから来た児童は、最初は外遊びがない事への不満を口にしていたが、日に日に慣れていき、職員との関わりや、人数が少ないのでゆったりと過ごせる等、児童館で過ごすことの良さに気付いていった。

高学年になると児童館で過ごす時間が短くなり、おやつ→学習→帰りの会といった流れに子ども達のストレスが溜まる事もあった。子ども達とどうすれば遊ぶ時間を作れるのか話し合い、学習を集中して短時間で終わらせるなど少しでも遊ぶ時間をとれるようにした。

また、高学年になるほど同じ学年の利用児童が少なく時間がある時でも学習と漫画で利用時間を終えてしまうことが多いので、利用児童の少なさを活かして、高学年にたくさん話しかけるなど丁寧に関わり、放課後の居場所の一つとなれるよう取り組んだ。結果、同じ趣味の低学年とも関わっていくようになり、来ることを楽しんでいる様子だった。

新型コロナウイルスに感染する児童が増え、神戸市の規定により濃厚接触者に9名の児童がPCR検査を実施した。（検査の結果、陽性の児童はいなかった）その後、神戸市の規定が改定された為、児童館で検査をする事はなくなったが、より感染対策を徹底することに力を注いだ。

来館後、嘔吐や下痢、発熱をする児童もいたが、職員で連携を取りながら対処し、感染拡大防止を徹底した年だった。

令和3年度 事業報告書

神戸市立湊学童保育コーナー

1. <基本方針>

- ①豊かな遊びや経験を通して、健やかな育成を図る。
- ②保護者、地域社会との連携を図り、よりよい子育て環境作りを行う。
- ③親館との連携を密に図る。

2. <中長期目標>

- ①児童一人一人と丁寧に向き合い、心落ち着く場にする。
- ②安心して学童保育が利用できるよう、小学校・保護者との連携作りに努める。

3. <令和3年度報告>

- ①小学校との連携を密に図り、定期的な連絡会を実施する。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、定期的な連絡会は取りやめたが、情報のやり取りは随時行った。
- ②児童、職員の交流を深め、親館と一体的に保育を行う。
→新型コロナウイルス感染拡大防止の為、直接会っての児童の交流を取りやめたがオンラインを活用してけん玉大会をして交流を図った。
- ③豊かな経験ができるよう努める。
→学童内の行事の準備や進行を行い、友だちと協力して目的に取り組むようにするなど多様な経験をできるようにした。
- ④夏季休業日期間の希望者お弁当委託サービスを行う。
→昨年に引き続きライフデリに委託し、実施することができた。
- ⑤リスクマネジメント会議を月1回行い、安全を確保する。
→会議で情報を共有し、安全確保に努めた。
職員会議で毎月情報共有し、対応について話し合った
- ⑥植物や生物の世話をする機会を用意し、命の大切さを学ぶ機会を作る。
→メダカの飼育や植物への水やりなどを通して、命を大切にすることを学ぶ機会を設けた。
- ⑦児童が興味を持っていることに進んで取り組めるように、環境を整えていく。
→けん玉に熱心に取り組んでいる児童が新しい技に挑戦できるよう、解説書を購入した。また、けん玉協会の段位の技を調べて目標を持って取り組めるようにした。

4. <内容>

- ①健やかで安全な環境作りに努めるとともに、限られた場所と時間の中で自立を支援する指導を行ったり、人間関係が円滑にいくよう指導を行った。
 - ・学習支援
 - ・けん玉遊びの推奨
 - ・おりがみ遊び
 - ・工作教室
- ②学校や地域と連携を密に行い、子どもの安全確保・自立支援に努めた。

5. 《年間行事報告》

4月	新入生歓迎会
5月	楠北まつり・こども神輿参加（中止）
6月	つくって遊ぼう
7月	夏祭り 昼食会
8月	サマープログラム（工作・ゲーム） ビデオシアター こども神輿参加（中止）
9月	製作遊び
10月	ハロウィンパーティー
11月	製作遊び
12月	クリスマス会 昼食会
1月	お正月遊び 個人懇談
2月	豆まき（中止） 新1年生資料配布
3月	お別れ会 お別れ遠足（中止） 入会説明会 昼食会

6. 《月間行事報告》

誕生日会・けん玉検定・おりがみ教室・みんなであそぼう（中止）

7. 《初日在籍数報告》

	1年生	2年生	3年生	合計
4月	59	42	25	126
5月	59	41	24	124
6月	59	41	24	124
7月	59	40	24	123
8月	59	40	24	123
9月	58	39	21	118
10月	57	38	18	113
11月	58	37	16	111
12月	58	37	16	111
1月	58	37	15	110
2月	59	34	15	108
3月	59	34	15	108
合計	702	460	237	1399

8. 《防災・防犯訓練報告》

火災、地震、水害、防犯の何れかの訓練を、月1回以上行った。

9. 《会議報告》

毎月職員会議を行った。児童について・児童の関わり・作業手順の統一・学童保育の約束事の共通理解・問題点や改善点について話し合った。
長期休み期間を除いて、平日に児童館とオンラインでミーティングを行い、情報共有をした。

10. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する。

令和3年度 事故 3件

令和2年度 事故 2件

○事故発生内容

打撲・・・3件

○まとめ

- ・遊んでいる際に、頭を横に大きく振り、隣の机に左臉をぶつけ、擦り傷ができた。傷の深さや大きさが気になったので、病院を受診。傷を縫うことはなく、テープでの処置にとどまった。薬やテープの替えなどの通院は無かった。
- ・ジャンプをした際にバランスを崩して転倒し、床で尻もちをつき、側にあった机で後頭部を打った。後頭部が切れて出血していたので、受診した。福本外科に行ったが、後頭部なのでCTを撮る方がいいとのことだったので、吉田医院を受診。結果は異常なく、出血も止まってきていたので帰宅し様子を見ることになった。異常がなければ再受診の必要は無いとのことだった。その後変わりなかったので再受診はしていない。
- ・暴れて物を投げていた児童を落ち着かせようと、職員がその児童を抱き上げた際、児童が暴れて職員の右目にこぶしが当たった。

11. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→館長が直接対応した件を苦情とする。

○報告件数・・・ 1件

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談	報告件数	合計件数	苦情	相談
	1件	0件	1件		8件	3件	5件

○まとめ

子どもが学校と公文の宿題の量にストレスを感じていた為、子どもの気持ちに共感して話をしていたが、保護者や他の職員にその情報を伝えておらず、子どもが家で母に話した際に誤解を生んだ。

いつもと違った様子が見受けられた時は、保護者に伝え、周りの職員にも周知しておくようにする。

1 2. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (児童)	感染拡大防止対策で要 した費用	感染拡大防止対策で得 た補助金・見舞金等
0件	12件	1,260,000円	1,260,000円

○まとめ

- ・緊急事態宣言やまん延防止措置の発令による神戸市からの通達をもとに、その都度運営会議を開き対策などを話し合った。
- ・感染症対策や発生時の対応マニュアルを作成し、職員間で共通理解を図った。
- ・神戸市からの通知を手紙や『さくらメッセージ』の配信にて保護者へと知らせた。
- ・感染者が出た場合は法人内でできること（消毒業者の手配・夜食の手配など）を積極的に言い連携を図った。
- ・利用自粛対象者無し

1 3. 《総括》

利用申込者が多く、1年生～3年生のみの利用になったため、上の学年が下の学年に遊びやマナーを教える場面が少なかった。今後も低学年のみの利用が続くと予想されるので、課題として職員間で話し合っていく。

今年度も新型コロナウイルス感染症の対策に追われる1年だった。おやつ提供や、長期休みの際の食事の座席等、その時の状況に応じて臨機応変に対応しながら、慎重に進めた。夏休み期間や春休み期間は、湊小学校にご協力いただき、クラブハウスや家庭科室をお借りすることができ、食事の時に座席間の距離をとることができたので、感染者は出たものの濃厚接触に当たる児童が出ずに済んだ。

健康観察表を毎日持って来ない児童やマスクから鼻が出ている児童が多かったため、児童と保護者にもっと感染拡大の防止を働きかけていく。

児童数が多いことで、子ども同士のトラブルが目立っていた。特に2年生は言葉での言い争いが多く、段々とエスカレートして乱暴な言葉遣いになったり、不快に感じる内容の手紙を書いたりしていた。そういった行動は相手を大きく傷つけることを子ども達全員に伝え、相手を思いやる気持ちを育てていきたい。

衝動的に建物から飛び出したり暴れたりする、保護者の虐待により児童相談所に保護されるなど、考えさせられる出来事があった。個々の様子をよく観察していけるように業務の見直しも進めていきたい。また、気になる児童とはどのように接していけばいいのかを話し合う時間の確保をしていく。

職員の入れ替わりが多く、マニュアルがうまく機能していないことがあった。職員が決まったことを徹底して行うことができていなかったと感じたので、職員への周知徹底を意識し、理解しやすい内容について考えていく。

1. <基本方針>

- ①利用者の最善の利益を目的とし、利用者主体の福祉サービスを提供する
- ②母と子の権利擁護の為に、職員一人ひとりの倫理観、人間性を養い、母と子が安心して生活出来る場を提供する

2. <令和3年度目標>

- ①各入所者の自立へのプロセスを明確にし、ニーズに沿った支援をする

金銭面や親子関係など、各入所者の自立に向けた課題、支援内容を職員間で話し合い、共有する事が出来た。また、共有する事で職員による対応の差を減らし、チームとして一貫した入所者支援に繋がった。

- ②職員の資質の向上

職員の約7割が勤務10年以上となっており、経験年数に比例し職員の資質も向上しているが、来年度、新人職員が2名入職すること、人材育成計画等が不十分であることを踏まえ、人材育成計画等の作成をし、取り入れていきたい。

- ③母子生活支援施設の認知向上活動（施設・母子連盟）

母子連盟では、リーフレットの作成や配布等、計画していた活動を行う事が出来た。施設としては、大学へ講義に行く計画を立てていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期となった。

3. <入居者の異動利用状況・リフレッシュ保育利用状況>

●入居者の異動利用状況

		月別区分												計
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
初日在籍世帯数		17	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	215
初日在籍人数		39	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	41	490
入所	住宅喪失	1												1
		2												2
退所														0
														0
短期保護	母子												1	1
													2	2
	婦人													0

(数字の上段は世帯数、下段は人数)

●リフレッシュ保育事業

※月別利用者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
R3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
R2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

・令和2年度に引き続き、令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策の為に、受け入れせず。

4. <<年間行事・活動計画>>

●年間行事

月	行事	月	行事
4	個別遊び (お菓子作り) 昼食会 (カレーライス・プチゼリー)	10	OB会 (中止) 親子エンジョイ (中止) ハロウィン (クイズ・景品配布) 個別遊び (おにぎらず作り)
5	母子協 母と子の運動会 (記念品配布) 個別遊び (中止)	11	施設内忘年会 (弁当配布) 個別遊び (ひらかたパーク)
6	個別遊び (スノードーム作り) 害虫駆除 (防虫用品配布) 卓球大会 (中止)	12	施設内クリスマス会 (ピザ等配布・景品配布) 個別遊び (ヘキセンハウス作り)
7	母子協 児童キャンプ (中止) 七夕 (ゼリー配布・後日弁当配布) 個別遊び (ピザ作り) 昼食会 (カレーライス・プチゼリー) 昼食会 (牛丼・みそ汁・ミニジュース)	1	母子協 新春母と子の集い (くじ引き大会、芸術コンテスト開催) 新年会 (オードブル配布、くじびき) 個別遊び (カレーライス作り) 昼食会 (お餅・雑煮・みかん)
8	地藏盆 (飾り・ご詠歌・弁当配布) 個別遊び (中止) 昼食会 (中止)	2	母子協 児童スキーキャンプ (中止) 節分 (豆・具材を希望世帯に配布) 個別遊び (中止)
9	母子協 バス旅行 (中止) 焼肉パーティー (弁当配布) 個別遊び (中止) 昼食会 (中止)	3	児童エンジョイ中学生以上 (中止) ひな祭り (いちご・ひなあられ配布) 個別遊び (アイシングクッキー作り) 昼食会 (カレーライス・プチゼリー)

- ・母の会→4～6月、9月、1～3月、新型コロナウイルス感染症対策の為、開催せず。プリントのみ配布する。
- ・中止→新型コロナウイルス感染症対策の為、開催を中止したもの。

●活動計画

①環境整備

設備の老朽化による水道管修繕、リフォームを行った。

②地域貢献

- ・法人こども園の時間外保育受け入れ (20時以降)
- ・リフレッシュ保育事業の保育時間延長 (21時以降)
- ・アフターケア (居室訪問、相談業務、病院の付き添い、金銭管理、関係機関との連携等)
- ・ほっとかへんネット中央との連携

こども園の時間外保育受け入れは施設の職員体制、新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ、受け入れをした。アフターケアは主に5名の方に対し、行った。

③会議

頻度	会議名		
月1回	職員会議	支援会議	ワンアッパ会議
	リフレ委員会	リスクマネジメント会議	リーダー会議
年2回以上	三者連絡会議（施設・子ども福祉係・生活保護係・保健師の各担当者）		

- ・職員会議、支援会議、リスクマネジメント会議、ワンアッパ会議
→5月、8～9月、2月は新型コロナウイルス感染症対策の為、書面会議を行う。
- ・リフレ委員会
→新型コロナウイルス感染症対策により、受け入れを止めていた為、開催せず。
- ・三者連絡会議
→年2回、予定していたが、新型コロナウイルス感染症対策の為、1回のみ開催となる。

④研修

全母協職員研修、近母協職員研修、DV研修、保健衛生研修、消防研修、法人内研修、相談員合同研修会に参加した。

⑤広報

- ・毎月、施設内新聞を利用者、関係機関に配布した。
- ・求人パンフレットを各大学等に配布した。

⑥学習指導

対象者	頻度	内容
小学生	長期休み以外 (各児童週1回)	国語・算数 個々の能力に沿って、学校の宿題、プリント、ワークを用い、行った。
	長期休み (1回30分、回数は児童により、週1～5回)	国語・算数の宿題を行った。
中学生	長期休み以外 (各児童週1回)	学校、塾のワークを用い、行った。
	テスト前 (各児童2日間連続)	テスト範囲の勉強を行った。

- ・4/25～6/4、8/2～10/1、1/24～3/6まで、新型コロナウイルス感染症対策の為、各学習指導を実施せず。また、中学生も長期休み期間中、日中の勉強を実施せず。

⑦健康診断

種類	職員	母親	児童
一般健康診断	年2回	年2回	年2回
検便（O-157）	月1回	—	—

⑧避難訓練

消防訓練（毎月、1回）、浸水訓練（7月）、不審者訓練（10月）、地震訓練（11月）

消防訓練、4～6月・9月・1～2月は新型コロナウイルス感染症対策の為、中止とする。浸水訓練（7月）、不審者訓練（10月）、津波訓練（11月）を実施する。

⑨保健衛生

業者に依頼し、各居室のエアコン清掃、共有部の廊下清掃を行う。

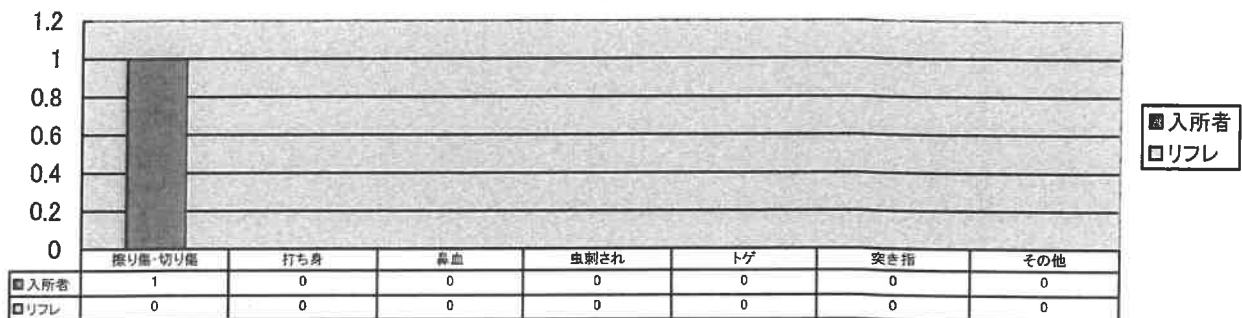
5. <<リスクマネジメント報告>>

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。
 ※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

●報告件数

令和3年度				令和2年度			
	合計	事故	ケガ		合計	事故	ケガ
入所者	1件	0件	1件	入所者	4件	0件	4件
リフレ	0件	0件	0件	リフレ	0件	0件	0件

事故・ケガ報告(内容)



●まとめ

事 故→病院を受診する様な怪我は無かった。
 ケガ報告→リフレッシュ保育事業の受け入れを行わなかった為、リフレの怪我はなかった。
 入所児童の怪我は、保育中の怪我だった。施設内保育では、未就学児の受け入れも去年度より多く行っているが、リスク管理をしながら保育していた為、大きな怪我はなかった。

6. <<苦情・相談結果報告>> 苦情の定義→施設長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

●報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告 件数	合計	苦情	相談	報告 件数	合計	苦情	相談
	3件	3件	0件		1件	0件	1件

●まとめ

苦情は近隣の方より騒音について1件、入所者より2件あった。近隣の方より法人宛に郵便が届き、対象の入所者にも報告し、設備に関しても速やかに対処した。入所者からは、水漏れ修理に職員が立ち会った際の対応と、食事提供した弁当が腐っていると持ってきた際の対応についてだった。初期対応を速やかに行う事、日頃より丁寧な対応を心掛けていきたい。

7. <新型コロナウイルス感染症報告>

●発生件数

令和3年度			
陽性者 (職員)	陽性者 (利用者)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・ 見舞金等
3件	8件	447,534円	414,323円

●新型コロナウイルスまとめ

- ・対策として、下記の対応をする。
 - ①健康状態の管理（検温表の提出）
 - ②入館の制限、外部業者が出入りする際の検温
 - ③職員の体調管理（検温）
 - ④職員間の対応に関する情報共有、連絡体制の整備
 - ⑤隔離部屋の確保
 - ⑥陽性者発生時の施設内消毒
 - ⑦行事の中止、内容の変更
 - ⑧リフレッシュ保育事業、短期保護事業、新規入所者の受け入れ制限
- ・新型コロナウイルス補助金、見舞金
 - ①全社協
 - ②神戸市こども家庭支援課

8. <総括>

今年度も新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの施設運営となり、感染対策を取りながら可能な範囲で行事は開催したが、会食は全て中止とした。その為、入所者と職員及び入所者間の交流をあまり持つ事が出来なかった。しかし、感染症担当者が主となり、会議等で対策について話し合い、陽性者発生時にも各職員が迅速に対応出来た事は、チームとして評価したい。また、感染症以外でも各職員が主体性を持ち、行動する姿が様々な面で見られた為、より個々の能力（長所）がチームの力に繋がる様、次年度は新入職員も含めた育成面に力を注いでいきたい。

令和3年度 事業報告書

大慈学童クラブ

1. <基本方針>

- ・児童福祉法の理念及び法人の設立精神である「和顔愛語・上敬下愛」に基づき児童の人権を尊重する
- ・共同で行動することを通して、生活習慣、人間関係、思いやり等が身につくように援助する

2. <目標>

- ①個別配慮が必要な児童の受け入れ等、利用者のニーズを把握し、ニーズに沿ったサービスを提供する

今年度は6人の要配慮児童の受け入れをした。また、当学童から習い事や放課後デイへ行った後も保護者の要望に沿って、お迎え等の時間まで再度の受け入れを行った。

- ②リスクマネジメントに基づき、リスクの軽減を図る。

日常の保育や行事など、想定されるリスクについて、その都度、職員間で話し合い、対策を講じる等、リスクの軽減に努める事が出来た。

- ③職員の資質の向上。

保育、保護者対応の面などにおいて、経験により各職員の資質も向上しているが、現状では、人材育成計画が不十分である為、人材育成計画等の作成をし、取り入れていきたい。

3. <利用人数>

初日在籍数 (人)

学年 月	1年	2年	3年	4年	合計	学年 月	1年	2年	3年	4年	合計
4	6	9	6	9	30	10	5	9	5	8	27
5	6	9	6	9	30	11	5	9	5	7	26
6	6	9	6	8	29	12	5	9	5	7	26
7	6	9	6	8	29	1	5	9	5	7	26
8	6	9	6	8	29	2	5	8	5	7	25
9	6	9	5	8	28	3	5	8	5	7	25

4. <活動計画・年間行事>

●活動計画

- ①地域貢献…延長保育の時間外受け入れ (18時～19時)

定額での延長保育希望者を除き、当日に64件、最長で19時45分まで預かりを行った。

- ②会議…学童委員会 (月1回)

新型コロナウイルス感染症対策として、5、9、2月は書面会議を行い、8月は中止とした。

- ③広報

- ・保護者、各区役所、神戸市役所こども家庭局に学童新聞を発行した。新聞の内容には、行事予定や、お知らせ等を記載した。
- ・求人パンフレットを各大学等に配布した。

④避難訓練

新型コロナウイルス感染症対策の為、4～6月、9月、1～2月は中止とした。また、7、10月は夜間想定訓練の為、実施せず。水消火器使用訓練（8月）、津波訓練（11月）、実施する。不審者訓練（10月）は夜間想定の為、実施せず。

⑤保健衛生

エアコンのクリーニング、廊下清掃を業者に依頼し、実施した。また、毎週金曜日（祝日、年末年始除く）、大掃除を行った。新型コロナウイルス感染症対策により、害虫駆除は行わず。

●年間行事

月	行事	月	行事
4	お花見 昼食会（カレーライス・プチゼリー） のびっ慈 day（わか飛行機作り）	10	のびっ慈 day（ポーチ作り）
5	グループワーク（中止→室内遊びに変更） のびっ慈 day（ゲーム大会）	11	グループワーク（大倉山公園） 個別懇談会（希望者対象）※12/4まで のびっ慈 day（ストローハングラライダー作り）
6	グループワーク（中止→室内遊びに変更） 個別懇談会（希望者対象）※7/3まで のびっ慈 day（折り紙凧作り）	12	クリスマス会 昼食会（中止） のびっ慈 day（しめ縄作り）
7	スイカ割り 水遊び ミサンガ作り 昼食会（カレーライス・プチゼリー） 昼食会（牛丼・みそ汁・ミニジュース） のびっ慈 day（カバン作り）	1	もちつき（中止→お餅を使った料理提供） のびっ慈 day（凧作り）
8	屋台村 交通安全教室 水遊び 映画会 ゲーム大会 壁画作り 地藏盆（中止→お供えのお下がり配布） 昼食会（中止） のびっ慈 day（的当て）	2	のびっ慈 day（クレーンゲーム作り）
9	昼食会（中止） のびっ慈 day（ストロー飛行機）	3	昼食会（カレーライス・プチゼリー） のびっ慈 day（ゲーム大会）

・中止→新型コロナウイルス感染症対策により、中止したもの

5. 《リスクマネジメント報告》

※事故の定義…職員が付き添い、病院を受診したもの。

※ケガの定義…事故以外のケガで、職員が処置したもの

●報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計	事故	ケガ	報告件数	合計	事故	ケガ
	65件	1件	64件		55件	3件	52件

事故・ケガ報告(内容)



●まとめ

事故→室内遊び中、床に手を伸ばしていた児童の右手小指を他児が踏んでしまい、指を骨折(ヒビ)した。ケガの件数は前年度より増えたが、病院を受診する事故に繋がる様なケガは減少しており、防ぐ事が出来た。

ケガ報告→前年度と比べて、保育を利用する児童が多く、また外遊びにも頻繁に行ける様になった為、ケガの件数は増えた。転んだり等の不慮のケガは多かったが、感染症対策を含めて、子ども同士の接触を減らし、安全に過ごせる様、保育した。

6. 《苦情・相談結果報告》 苦情の定義→運営委員長が状況を見て、苦情か相談かを判断する。

●報告件数

令和3年度				令和2年度			
報告件数	合計	苦情	相談	報告件数	合計	苦情	相談
	3件	1件	2件		2件	1件	1件

●まとめ

苦情、相談共に内容は保育中に起きた子ども同士のトラブルだった。4年生を受け入れる事により、子ども同士の関わり方についても注意し、保育する必要性を感じた為、会議等を通して職員で話し合い、保育する人数体制を増やす等の対応を行った。

7. 《新型コロナウイルス感染症報告》

令和3年度			
陽性者(職員)	陽性者(利用者)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助金・見舞金等
3件	5件	424,212円	400,000円

●新型コロナウイルスまとめ

- ・新型コロナウイルス感染症対策として、下記の対応をする。
 - ①児童の健康状態の管理（検温、健康観察表の確認）
 - ②定時の換気、消毒
 - ③手洗いや消毒等の徹底
 - ④送迎時の入館の制限、外部業者が出入りする際の検温
 - ⑤職員の体調管理（検温）
 - ⑥食事中、パーティションの設置
 - ⑦おやつを持ち帰り
 - ⑧職員間の対応に関する情報共有、連絡体制の整備
 - ⑨陽性者発生時の施設内消毒
- ・1/26～28、感染拡大により学校が休校となり、学童も閉鎖する。（3日分の保育料、返金する）
- ・新型コロナウイルス補助金、見舞金
 - ①神戸市青少年課

8. <<総括>>

利用希望者の傾向として、要配慮児童や小規模での保育希望者が年々、増えており、今年度は保育状況などに応じて、職員配置を1人増やし対応をした。小規模保育ならではの特性を活かし、次年度も利用者に安心して利用頂ける保育を行っていききたい。また、新型コロナウイルス感染症においては、今年度も行事の中止があり、計画通りの運営が行えなかった。感染対策の徹底、陽性者発生時の迅速な対応、代替え行事の考案など、次年度も引き続き、行っていききたい。

令和3年度 事業報告書

事業所内保育事業 大慈さくら保育園

1. 《ヴィジョン》

世代を超えた関わりのもと、安心して自分を出せる子どもを育てる

2. 《基本方針》

- ① 高齢者との多様な関わりを通して、思いやりの心を育む
- ② 自然との関わりを通して、多様な経験をする
- ③ 子どもが安心して生活できるように、保護者との連携を図る

3. 《令和3年度報告》

- ① 保育理念に基づき、環境を見直し整え、子どもの自主性を養う
→職員の研修参加を積極的に行い、保育する力を高めた
消毒作業を徹底し、子どもの行動を制限することなく保育できるよう、環境を整えた
- ② 事業所枠の園児数推移に因っては、地域枠の拡大を申請し、在園児数を増やす
→地域枠の変更の必要は無かったが、年度途中で初めての0歳児を受け入れる事となった
- ③ 老人施設事業所内保育の特性を活かし、高齢者との交流を定期的に行う
→コロナ禍で交流は控えた

4. 《月行事計画》

月行事	頻度
お誕生日会	毎月1回
発育測定	毎月1回
特養高齢者との交流会	毎月2～4回

5. 《年間行事》

月	行事	月	行事
4月	入園式	10月	遠足
5月		12月	クリスマス会
6月	2歳児 園外保育→中止	1月	正月あそび
7月	七夕まつり	2月	豆まき
8月	花火大会(特養と合同)→中止	3月	お別れ会

6. 《防火防災計画》

- ①運営に関する基準に準じ毎月の防災訓練を実施する

月行事	頻度

防災訓練（避難及び消火訓練）	毎月1回
防犯訓練	毎月1回
安全チェック	毎月1回
事故対応訓練（SIDS・誤飲・アレルギー対応）	随時

②訓練や設備点検等、大慈智音園の防火防災計画と連動を図る

<例：大慈智音園防火防災計画>

月	内容
4月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認 火災訓練
5月	高圧電気点検 不審者対策 火災訓練
6月	災害連絡網確認 通報訓練 火災訓練
7月	消火訓練 災害食作成訓練 火災訓練
8月	図上避難訓練 消防設備点検 火災訓練
9月	不審者対策 災害連絡網確認 火災訓練
10月	消火器使用期限確認 防災マニュアル確認 火災訓練
11月	総合避難訓練（夜間） 通報訓練 火災訓練
12月	消火訓練 火災訓練
1月	図上避難訓練 火災訓練
2月	消防設備点検 火災訓練
3月	総合避難訓練（日中） 不審者対策 暗証番号変更 火災訓練

7. <<保健衛生計画>>

項目	頻度等
園児・職員定期内科健康診断	園児 春秋年2回 職員 春年1回
園児歯科健診	年1回
園児発育測定	月1回
園児検尿	年1回
保育従事者の検便	月1回（強化月間の間は月2回）

8. <<令和3年度在籍児一覧表>>

	0歳児	1歳児	2歳児	合計	充足率
4月	0	0	4	4	21%
5月	0	0	4	4	21%
6月	0	0	4	4	21%

7月	0	0	4	4	21%
8月	0	0	4	4	21%
9月	0	0	4	4	21%
10月	0	0	4	4	21%
11月	1	0	4	5	26%
12月	1	0	4	5	26%
1月	1	0	4	5	26%
2月	1	0	4	5	26%
3月	1	0	4	5	26%
合計	5	0	48	53	23%

9. 《リスクマネジメント報告》

※医師の診察を受けた怪我を事故と定義する

令和3年度 事故 0件

10. 《苦情・相談結果報告》

苦情の定義→管理者が直接対応した件を苦情とする

令和3年度			
報告件数	合計件数	苦情	相談
	0件	0件	0

11. 《新型コロナウイルス感染症報告》

○発生件数

陽性者 (職員)	陽性者 (ゲスト)	感染拡大防止対策で要した費用	感染拡大防止対策で得た補助 金・見舞金等 (見込み含む)
0件	0件	¥547,000	¥547,000

12. 《総括》

運営開始後2年目の年度でしたが、チラシや地下鉄沿線駅への掲示、施設建物への横断幕等を継続して実施し、地域での認知度を高める努力を行いましたが、充足率は伸び悩みました。

その一方、少人数で保育する事が出来、昨年度に引き続き、乳児期における「丁寧に保育する」事の大切さを実感できました。また、年度途中から0歳児が入園したことで、2歳児の子どもにとっても良い刺激となりました。コロナ禍で対外的な交流は控えざるを得ませんでした。小規模ならではの家庭的な雰囲気での季節行事を経験できる保育を行えました。令和4年度は在園時1名からのスタートとなりましたが、引き続き丁寧な保育を行っていきたいと考えております。